

## 法人単位資金収支計算書

(自) 令和 6年 4月 1日 (至) 令和 7年 3月31日

(単位：円)

勘定科目		予算(A)	決算(B)	差異(A)-(B)	
事業活動による収支	収入	就労支援事業収入	22,500,000	22,842,509	△342,509
		障害福祉サービス等事業収入	908,712,000	921,073,032	△12,361,032
		その他の事業収入	120,000	120,000	
		経常経費寄附金収入	330,000	1,898,530	△1,568,530
		受取利息配当金収入	10,000	216,508	△206,508
		その他の収入	5,520,000	7,859,779	△2,339,779
	事業活動収入計(1)		937,192,000	954,010,358	△16,818,358
	支出	人件費支出	647,170,000	613,333,238	33,836,762
		事業費支出	85,910,000	86,387,386	△477,386
		事務費支出	126,180,000	129,063,110	△2,883,110
就労支援事業支出		22,500,000	22,915,409	△415,409	
支払利息支出		330,000	319,139	10,861	
その他の支出		5,260,000	6,337,432	△1,077,432	
事業活動支出計(2)		887,350,000	858,355,714	28,994,286	
事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)		49,842,000	95,654,644	△45,812,644	
施設整備等による収支	収入	施設整備等補助金収入	120,800,000	123,440,000	△2,640,000
		固定資産売却収入		3,297,820	△3,297,820
		その他の施設整備等による収入	480,000	425,327	54,673
	施設整備等収入計(4)		121,280,000	127,163,147	△5,883,147
	支出	設備資金借入金元金償還支出	9,006,000	9,006,000	
固定資産取得支出	206,811,800	213,354,575	△6,542,775		
施設整備等支出計(5)		215,817,800	222,360,575	△6,542,775	
施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)		△94,537,800	△95,197,428	659,628	
その他の活動による収支	収入	積立資産取崩収入	33,273,194	33,273,194	
		その他の活動収入計(7)	33,273,194	33,273,194	
	支出	積立資産支出	4,980,000	4,980,000	
		その他の活動支出計(8)	4,980,000	4,980,000	
その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)		28,293,194	28,293,194		
予備費支出(10)			—		
当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)		△16,402,606	28,750,410	△45,153,016	
前期末支払資金残高(12)		540,752,215	540,752,215		
当期末支払資金残高(11)+(12)		524,349,609	569,502,625	△45,153,016	

## 法人単位事業活動計算書

（自）令和 6年 4月 1日（至）令和 7年 3月31日

（単位：円）

勘定科目		当年度決算(A)	前年度決算(B)	増減(A)-(B)	
サービス活動増減の部	収益	就労支援事業収益	22,842,509	23,016,478	△173,969
		障害福祉サービス等事業収益	921,073,032	855,499,327	65,573,705
		その他の事業収益	120,000	120,000	
		その他の収益		489,064	△489,064
		経常経費寄附金収益	1,898,530	466,359	1,432,171
	サービス活動収益計(1)		945,934,071	879,591,228	66,342,843
	費用	人件費	613,333,238	592,157,188	21,176,050
		事業費	86,387,386	75,915,039	10,472,347
		事務費	129,063,110	120,057,826	9,005,284
		就労支援事業費用	22,915,409	23,016,478	△101,069
減価償却費		32,634,122	31,906,949	727,173	
国庫補助金等特別積立金取崩額	△6,276,296	△6,274,808	△1,488		
サービス活動費用計(2)		878,056,969	836,778,672	41,278,297	
サービス活動増減差額(3)=(1)-(2)		67,877,102	42,812,556	25,064,546	
サービス活動外増減の部	収益	受取利息配当金収益	216,508	4,941	211,567
		その他のサービス活動外収益	7,859,779	5,946,463	1,913,316
	サービス活動外収益計(4)		8,076,287	5,951,404	2,124,883
	費用	支払利息	319,139	317,539	1,600
		その他のサービス活動外費用	6,337,432	4,950,350	1,387,082
サービス活動外費用計(5)		6,656,571	5,267,889	1,388,682	
サービス活動外増減差額(6)=(4)-(5)		1,419,716	683,515	736,201	
経常増減差額(7)=(3)+(6)		69,296,818	43,496,071	25,800,747	
特別増減の部	収益	施設整備等補助金収益	123,440,000		123,440,000
		固定資産受贈額		241,360	△241,360
		固定資産売却益	31,820		31,820
		その他の特別収益		28,732,014	△28,732,014
	特別収益計(8)		123,471,820	28,973,374	94,498,446
	費用	基本金組入額		1,067,000	△1,067,000
		固定資産売却損・処分損	1,951,229	1,997,813	△46,584
国庫補助金等特別積立金取崩額(除却等)		△181,150		△181,150	
国庫補助金等特別積立金積立額	123,440,000		123,440,000		
その他の特別損失		3,802,450	△3,802,450		
特別費用計(9)		125,210,079	6,867,263	118,342,816	
特別増減差額(10)=(8)-(9)		△1,738,259	22,106,111	△23,844,370	
当期活動増減差額(11)=(7)+(10)		67,558,559	65,602,182	1,956,377	
繰越活動増減差額の部	前期繰越活動増減差額(12)		906,503,884	845,521,702	60,982,182
	当期末繰越活動増減差額(13)=(11)+(12)		974,062,443	911,123,884	62,938,559
	基本金取崩額(14)				
	その他の積立金取崩額(15)		33,273,194	273,194	33,000,000
	その他の積立金積立額(16)		4,980,000	4,893,194	86,806
	次期繰越活動増減差額(17)=(13)+(14)+(15)-(16)		1,002,355,637	906,503,884	95,851,753

## 法人単位貸借対照表

令和 7年 3月31日現在

（単位：円）

資 産 の 部				負 債 の 部			
	当年度末	前年度末	増 減		当年度末	前年度末	増 減
流動資産	591,299,605	575,967,882	15,331,723	流動負債	28,180,980	42,967,667	△14,786,687
現金預金	328,828,228	451,929,068	△123,100,840	事業未払金	19,921,132	21,747,403	△1,826,271
事業未収金	132,034,868	117,545,525	14,489,343	その他の未払金		△388,094	388,094
未収金	670		670	1年以内返済予定設備資金借入金	6,384,000	7,752,000	△1,368,000
未収補助金	128,978,930	5,828,480	123,150,450	預り金	65,010	13,781,648	△13,716,638
貯蔵品	13,120		13,120	職員預り金	1,810,838	74,710	1,736,128
立替金	830,103	14,684	815,419	固定負債	48,960,000	56,598,000	△7,638,000
前払費用	413,686	582,856	△169,170	設備資金借入金	48,960,000	56,598,000	△7,638,000
短期貸付金	200,000		200,000	負債の部合計	77,140,980	99,565,667	△22,424,687
仮払金		67,269	△67,269	純 資 産 の 部			
固定資産	763,702,830	616,918,127	146,784,703	基本金	31,880,802	31,880,802	
基本財産	662,522,729	529,920,079	132,602,650	国庫補助金等特別積立金	226,165,016	109,182,462	116,982,554
土地	65,663,768	65,663,768		その他の積立金	17,460,000	45,753,194	△28,293,194
建物	595,858,961	463,256,311	132,602,650	退職積立金	17,460,000	12,480,000	4,980,000
定期預金	1,000,000	1,000,000		施設整備等積立金		33,000,000	△33,000,000
その他の固定資産	101,180,101	86,998,048	14,182,053	設備整備等積立金		273,194	△273,194
建物	22,557,652	6,731,491	15,826,161	次期繰越活動増減差額	1,002,355,637	906,503,884	95,851,753
構築物	37,381,701	22,206,922	15,174,779	（うち当期活動増減差額）	67,558,559	65,602,182	1,956,377
車輜運搬具	3,315,278	958,486	2,356,792				
器具及び備品	11,484,752	3,629,693	7,855,059				
権利	6,517,896	6,567,968	△50,072				
ソフトウェア	1,099,662	200,007	899,655				
退職金積立資産	17,460,000	12,480,000	4,980,000				
施設整備等積立資産		33,000,000	△33,000,000				
設備整備等積立資産		273,194	△273,194				
差入保証金	56,000	56,000					
長期前払費用	1,297,160	884,287	412,873				
その他の固定資産	10,000	10,000					
資産の部合計	1,355,002,435	1,192,886,009	162,116,426	純資産の部合計	1,277,861,455	1,093,320,342	184,541,113
				負債及び純資産の部合計	1,355,002,435	1,192,886,009	162,116,426

# 令和6年度 事業報告書

## 令和6年度「法人本部」事業報告（法人総括）

### 1、基本方針に基づく事業実績報告

法人の基本理念・基本方針に基づき、事業の展開及び支援内容の充実を図った。

令和3年度から開始した四箇における施設整備計画を令和6年度末において終了した。

また、中央区障がい者基幹相談支援センターの事務所も中央区薬院の利便性の良い場所に移転出来、業務遂行も滞りなく実行できた。

利用者支援においては、応用行動分析学（ABA）を基とした、支援プログラムの推進を継続的に実施した。おおほり苑においてはPBSによる支援記録を報告書として製本するに至った。

重点目標を掲げての取組は一部を除き概ね遂行できた。内容は以下のとおり。

### 2、重点目標の達成状況報告

#### ①福岡市における地域生活支援拠点事業体制の構築について

地域生活支援拠点事業所四箇の敷地内に、新たに生活介護事業「くれふる」の新築移転計画を図り、福岡市における「社会福祉施設等施設整備費補助事業」の交付を基に、施設建設を行い、令和6年度内の竣工と施設移転を行った。

共同生活援助事業「なごみ」及び短期入所事業「ポノ」と生活介護事業「くれふる」との連携体制が構築できた。

#### ②福岡市立ももち福祉プラザ及び福岡市立早良障がい者フレンドホームの運営について

指定管理者2年目の受託事業として、安定した運営を図った。ただし、指定応募時に掲げた計画の全てを実行するまでには至らなかったが、地域との連携を目的とした「ももち福祉プラザ地域交流推進懇話会」を百道浜校区の「自治協議会会長」「老人クラブ会長」「人権尊重推進委員会会長」「社会福祉協議会会長」「ももち公民館館長」他をメンバーに開始した。

#### ③安全衛生委員会・虐待防止委員会等の中核委員会組織について

施設単位の委員会活動を中心として、本部が統括する当該委員会を開催するには至らなかった。

#### ④後援会と保護者会連携の推進

後援会会長との協議は継続したが、各施設保護者会との連携活動には至らなかった。

ただし、法人本部として、各施設保護者会総会に参加し、法人及び施設事業の報告並びに情報交換を行った。

#### ⑤法人事業経営の短・中・長期計画（グランドデザイン）について

法人の施設長会議・経営会議を基に検討を重ね、令和7年度からの法人運営の「短期」「中期」「長期」計画としてグランドデザインを策定した。

これにより、この計画に沿って令和7年度からの取組を開始することとした。

### 3、理事会・評議員会の開催実績報告

#### (1) 理事会

○第1回 日時：令和6年5月27日（月） 於：ももち福祉プラザ研修室

- 議案 第1号 令和5年度事業報告について  
第2号 令和5年度計算書類（決算）及び財産目録について  
第3号 令和5年度定時評議員会の招集について

- 報告事項 1、中央区障がい者基幹相談支援センター事業所の移転計画について  
2、指定特定相談支援事業所間一体的管理運営のための協定について  
3、生活介護施設「くれふる四箇（仮称）」の移転建築推進状況について  
4、福岡市の社会福祉法人監査結果について  
5、理事並びに評議員の職名等の変更について

○第2回 日時：令和6年12月2日（月） 於：ももち福祉プラザ研修室

- 議案 第1号 施設整備等積立金取崩しについて  
第2号 児童発達支援センターこだまの前期末支払資金残高の取崩しについて  
第3号 令和6年度資金収支第一次補正予算について  
第4号 給与規程の一部改正について  
第5号 育児・介護休業等規程の一部改正について

- 報告事項 1、中央区障がい者基幹相談支援センターの事業所移転について  
2、おおほり苑の駐車場改修整備について  
3、生活介護施設「くれふる四箇（仮称）」の移転建築推進状況について  
4、おおほり苑2階バルコニーの増築改修工事について

○第3回 日時：令和7年3月24日（月） 於：ももち福祉プラザ研修室

- 議案 第1号 定款の一部改正について  
第2号 令和7年度事業計画について  
第3号 令和7年度資金収支予算について  
第4号 経理規程の一部改正について  
第5号 次期評議員理事会推薦について  
第6号 評議員選任・解任委員会委員選出について  
第7号 評議員選任・解任委員会招集について  
第8号 施設長の解任・選任について

- 報告事項 1、生活介護施設くれふるの移転状況について  
2、おおほり苑の北側2階バルコニーの支援室への改築状況について

#### (2) 評議員会

○定時 日時：令和6年6月27日（木） 於：ももち福祉プラザ社会適応訓練室

- 議案 第1号 定款の一部改正について  
 第2号 令和5年度事業報告及び計算書類（決算）・財産目録について

- 報告事項 1、令和5年度における理事会審議事項報告について  
 2、くれふる四箇（仮称）建築の進捗状況について  
 3、中央区障がい者基幹相談支援センター事業所移転について

#### 4、監査の実施

- (1)内部監査：財務・会計について毎月税理士法人へ業務委託。  
 (2)監事監査：令和7年5月14日（水） ※指摘等なし  
 (3)市の監査：児童発達支援センターこだま 令和7年2月26日（水）※文書指導あり

#### 5、研修実績報告

##### (1) 新規採用職員研修

第1回 日時 令和6年4月30日（月）午後4時30分～5時30分  
 内容 就業規則の対応・経理事務対応等について  
 講師 法人本部長及び本部職員

第2回 日時 令和6年7月16日（火）午後4時30分～6時30分  
 7月18日（木） 〃

内容 ①障がい福祉サービス概要説明  
 ②当法人の専門領域説明  
 ③当法人の各種事業説明

講師 ①おおほり苑施設長、②地域生活支援拠点事業所四箇施設長  
 ③各施設長

※令和7年2月1日以降入職の常勤職員については、入職日に実施

##### (2) 管理監督者研修

開催日時 令和7年1月20日（月） 午前10時30分～12時00分  
 研修テーマ カスタマーハラスメントへの対応について  
 研修講師 市丸健太郎氏（当法人理事）

##### (3) 全職員研修（一部リモート）

開催日時 令和7年2月5日（水） 午後4時30分から6時00分  
 研修内容 合理的配慮から考える支援について  
 研修講師 三善史博氏（当法人理事）

##### (4) eラーニングによる研修（全職員）

実施月	法定研修のテーマ	共通研修のテーマ
令和6年10月	障害者虐待とは	ストレスを正しく理解する
令和6年11月	身体拘束について	セルフマネジメント
令和6年12月	スタンダード・アプリケーション	自分でできる！お薦めストレス対策

令和7年 1月	感染予防とゾーニング	仕事をするための社会人基礎力
令和7年 2月	B C Pとは	チームで働くための発信力と傾聴力
令和7年 3月		風通しの良い職場に必要な考え方

(5) 自動車安全運転事故防止研修（全職員研修）

内容 DVDライブラリーを各事業所に貸し出し事業所単位での研修

期間 令和6年8月1日～8月30日の期間

6、職員体制

年度内採用者 53名 退職者 48名

令和7年5月1日付職員体制 職員総数（休職者5名含む）219名

所属別職員数及び詳細は別紙組織図参照

7、職員表彰

福岡市長感謝状 1名

福岡市社協感謝状 11名

九州社会福祉協議会連合会会長表彰 3名

九州地区知的障害者福祉協会会長表彰 6名

8、寄付及び協賛

(1) 個人 0円

(2) 保護者 1,698,530円

(3) 団体 200,000円

計 1,898,530円

## 令和6年度「おおほり苑」事業報告

### 1. 基本方針・運営目標に基づく事業実績報告

#### (1) 利用者の主体的な生活と心身の健康の維持・増進のための支援

コロナ禍前の社会資源の活用を社会情勢に合わせて再開した。具体的には、公共交通機関の使用やスーパー、コンビニなどの活用をした。また、利用者個々のスキルや好みに応じた運動の実施や体力の維持・向上のための運動プログラムの計画、実施を行った。

感染症対策としては、コロナ禍同様に午前・午後の体温測定、手指消毒、館内消毒、定期的な換気の実施を行い、感染予防に努めた。感染状況としては、下記に示す。

コロナ	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
利用者	0	0	9	4	1	0	0	0	1	3	1	1
職員	0	0	8	0	2	0	0	0	0	0	0	0
合計	0	0	17	4	3	0	0	0	1	3	1	1
備考	—	—	休苑	—	—	—	—	—	—	—	—	—

インフル	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
利用者	0	0	0	1	0	0	0	0	1	1	0	0
職員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	0	0	0	1	0	0	0	0	1	1	0	0
備考	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

6月に利用者及び職員合計17名コロナウイルスに罹患したため、4日間休苑措置を取った。

地域で活躍できる場の提供としては、ガーデンコミュニティクラブや鳥飼公園愛護会を通じて、地域の方との交流の機会となった。また、地域の催し物や行事にも積極的に参加し、地域に根ざした施設となるよう努めた。

#### (2) 保護者や関係機関との信頼関係の構築と共同支援

職員間での報告・連絡・相談に関しては、迅速に情報の共有ができるよう、ツールを使用した。また、悩みを一人で抱え込まないよう、意見箱の設置をしたが、活用されることはなかった。

各種関係機関との連携に関しては、各担当単位での情報の共有をするとともに、リーダークラスで実施をする運営会議の場で情報の共有及び問題解決に向けた協議の場とした。

保護者との対等な立場での関係性の再構築については、法令遵守に基づき、可能な限りのニーズに対する検討、実施を行った。また、内部研修として、カスタマーハラスメント研修の実施。保護者会と共同で、保護者向けのカスタマーハラスメントに対する研修の企画を行ったが、実施には至らなかった。

#### (3) 利用者の権利擁護と意思決定の推進

利用者の権利擁護の視点として、合理的配慮の研修を3回実施した。利用者にとっての合理

的配慮及び個別的な配慮の視点での支援に向けて検討を行った。

意思決定支援として、新年会を実施した際に、以前までは保護者が食事のメニューを決めていた部分を利用者の意思に基づいて決定の機会を設けた。また、意思表示の機会を増やすことができるよう、視覚的に選択機会の提供を行った。

虐待防止委員会と身体拘束適正化委員会を毎月実施した。虐待防止のセルフチェックを年3回実施し、不適切なケアがなされていないか、グループディスカッションを行った。また、ヒヤリハット・事故報告を職員会議の場で、フィードバックし、再発防止のための検討機会を設けた。

#### (4) 職員の働きやすい環境と研修プログラムの実施

職員の働きやすい環境の整備として、送迎及び清掃業者への外部委託は継続して契約を行った。送迎については、送迎専属のパート職員を雇うことにより、送迎負担の軽減となった。また、働く時間の見直しとして、時間差出勤の導入を試験的に取り入れ、活用した。

職員の年休使用率の増加に向けて、内部異動を行い、引継ぎを行うことにより、年休取得増加に取り組んだ。

研修プログラムについては、内部研修として、オリエンテーション、チーム支援に対する研修を実施した。普段の業務で理解している部分はあるものの、職員によっては、曖昧な部分もあったため、改めて研修を通して周知を行った。

#### ① 正規職員年休取得率（令和6年度：40.8%）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
年休取得率	0.6%	2.7%	4.9%	2.2%	5.9%	2.9%	2.7%	3.8%	3%	4.9%	3.9%	3.3%

#### ② 残業時間（令和6年度平均残業時間：16.2時間）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2等級	23.35	18.6	8.3	17.9	12.9	14.5	18.4	16.25	16.3	11.2	8.1	9.2
3等級	34	18	17.25	16.75	12	25.25	19.75	15.75	14	14.5	10.5	12
4等級	25.8	25	15.5	24.5	14.5	26.3	32	22.75	19.5	14.4	15.4	16.4
5等級	28	19	14.25	17.75	13	18.5	20.25	17.25	22	7.75	10.5	9
全体平均	24.9	19.9	10.75	19.1	13.1	17.8	21.3	17.5	17.1	11.8	9.9	10.8

#### (5) 安心・安全な施設運営と危機管理体制の構築

経年劣化や設備不良があった際には、迅速に対応を行った。現利用者の新たな活動場所として、2階のテラス部分の増改築を行った。増改築することにより、外活動での対応利用者が室内で過ごすことができるように環境面を整えた。

危機管理体制の構築として、感染症及び自然災害時の机上訓練、実践訓練の実施。計画的に避難訓練の実施を行った。

## 2. 事業別実績報告

### <生活介護事業>

令和5年9月より生活介護事業に一本化し、全ての利用者に対して工賃支給を行った。年に2回の工賃評価表の見直しを行った。

作業だけに限らず、余暇活動や体力の維持・向上を狙った活動を計画的に実施した。また、コロナウイルスが5類に移行したことで、一泊旅行も実施することができた。一泊旅行に関しては、旅行会社を介入することによって、業務軽減を狙ったが、業務の軽減には至らなかった。一泊旅行終了後には、アンケートを取り、その評価を基に次回以降の旅行は検討することにした。

### 3. 年間行事実績報告

月	行事	詳細
6	避難訓練（火災）	職員・利用者で訓練
9	内科検診	受診利用者48名
9～2	一泊旅行	少人数に分けて、日を分散し、実施
11	インフルエンザ予防接種	参加利用者22名
12	レントゲン撮影	受診利用者45名
1	避難訓練（地震）	職員のみで訓練
2	避難訓練（水害）	職員のみで訓練
1・2	新年会	少人数に分けて、日を分散し、食事会
3	避難訓練	職員のみで総合訓練

### 4. 研修他実績報告

(1) <施設内研修第三金曜日> ※BCP研修は、サポカレ動画で対応。

月	研修名	内容	講師
4月	BCP研修Ⅰ	災害時における事業計画の周知	防災係
5月	運転技術研修	運転マナー意識向上と自己診断	三友アンブレラ
6月	成年後見人研修	成年後見人とは	弁護士
7月	メンタルヘルス研修	ストレスケアについて	九州大学こころとそだちの相談室
8月	嘱託医	先生への質疑応答	嘱託医
9月	上半期反省	—	—
10月	感染症予防研修Ⅰ	感染症の予防について及び演習	保健係
11月	感染症予防研修Ⅱ	感染症の予防について及び演習	保健係
12月	安全運転研修	安全運転と事故対応について	主任
1月	虐待防止研修	虐待防止について	虐待防止委員会
2月	下半期反省	—	—

< 苑内研修 >

月日	研修名	対象者
4月5日(金) 15時～	オリエンテーション	全職員
4月11日(木) 17時～	ビジネスマナー研修	全職員
4月25日(木) 17時～	ハラスメント研修	全職員
5月2・9・23・30日	支援・個別支援計画について	入職3年未満 ※希望者は受講可
各グループ会議にて	チーム支援について	全職員

(2) P B S 研修 (合計 17 ケース)

検討月	対象利用者	振り返り月
6月	1名	—
7月	4名	12月
8月	4名	2月
9月	4名	—
10月	理事長研修	—
11月	4名	—

(3) 施設外研修

開催日	研修名	受講者数
6月20日	救急研修	1名
7月11日	〃	1名
5/31・7/12・9/13・11/29・1/24・3/14	ABA 研修	1名
6月4日	新任職員研修	1名
7月10・11日	ストレスマネジメント研修【管理者コース】	1名
7月19日	ストレスマネジメント研修【中堅職員】	1名
動画配信	感染症予防研修 (前期)	1名
7月30日・10月24日	権利擁護に関する合同研修	1名
7月8・9日	九州地区知的障害者福祉協会職員研修大会	1名
動画配信	BCP 研修	1名
9月11日	福祉分野で働くための基本を学ぶ研修	1名
9月21～22日・10月1～2日	強度行動障がい者支援者養成研修	1名
10月1～3日	〃	1名
12月3日	「知的障がいのある人の犯罪行為についての支援を考え合う」研修会	1名
12月7日	障がい者行動支援研修 事例発表・シンポジウム	1名
1月20・25・26日	自閉症スペクトラム支援者養成研修	1名
1月27日	障がい児者福祉の動向 (民間協研修)	1名
1月27日	障がい児者福祉の動向 (民間協研修)	1名

1月27日	現場に役立つファシリテーション研修	1名
2月12・18日	福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程初任者コース	1名
2月28日	こうさい療育・支援セミナー	1名
〃	〃	1名
2月6日	業務目標の設定・管理・達成研修	1名
2月11～12日	サビ管基礎研修	1名
2月12～13日・27～28日	強度行動障がい者支援者養成研修	1名
2月22日	特別支援セミナー	1名

#### (4) 表彰

月	企業団体	部門	受賞者
7月	九州社会福祉協議会連合会	永年勤続者	2名
9月	福岡市住宅都市局公園部運営課	都市公園保全美化功労者・団体	おおほり苑
10月	福岡市福祉のまちづくり推進大会	社会福祉功労者	4名

### 5. 利用者状況報告

#### (1) 利用者数及び出席率（令和6年度平均85.9%）

生活介護	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
契約者数	54	54	54	54	54	54	54	54	54	53	53	53
出席率	87.3%	87.0%	85.3%	86.2%	81.2%	87.8%	86.1%	87.2%	84.8%	87.0%	84.3%	86.6%

※退所者1名（施設入所1名）

\*コロナウイルス蔓延のため、6月19日～24日の4日間休苑措置。

\*台風のため、8月29日～30日の2日間休苑措置。

#### (2) 利用者の状況

##### ①年齢状況

年代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	平均年齢
男性	3名	12名	16名	3名	2名	0名	40.2歳
女性	0名	9名	7名	0名	0名	1名	41.1歳
合計	3名	21名	23名	3名	2名	1名	40.6歳

##### ②療育手帳取得状況

	A1（最重度）	A2（重度）	B1（中度）	B2（軽度）
男性	26名	5名	5名	0名
女性	15名	2名	0名	0名
合計	41名	7名	5名	0名

③障がい支援区分状況

	区分6	区分5	区分4	区分3	区分2
男性	18名	9名	7名	1名	0名
女性	14名	4名	0名	0名	0名
合計	32名	13名	7名	1名	0名

③ 強度行動障がい及び重症心身障がい状況

	強行（重度2）	強行（重度3）	重心
男性	13名	7名	4名
女性	8名	1名	1名
合計	21名	8名	5名

(3) 売上実績

4月	5月	6月	7月	8月	9月
183,212円	168,097円	156,315円	191,667円	99,271円	99,441円
10月	11月	12月	1月	2月	3月
243,613円	207,646円	268,656円	189,182円	146,260円	164,849円
合計					2,118,209円

(4) 工賃実績

平均工賃 支給額	令和5年度	令和6年度
	1,704円	2,406円

6. その他

(1) 実習生受け入れ

西南学院大学：ソーシャルワーク実習 3名  
 東北福祉大学：ソーシャルワーク実習 1名

(2) 車両事故報告件数： 9件

(3) 施設関係

駐車場拡張工事（9月工事完了）  
 北側2階増築工事（3月工事完了）  
 厨房 冷蔵庫、食洗器入れ替え（2月）

(4) 苦情対応：1件

送迎中の苦情  
 送迎ドライバーを外委託しており、朝の送迎時に危険運転をしていると連絡あり。送迎ド

ライバーに事情を聴くと、腹痛のため、急いでいた。

連絡をいただいた方からは、本部と事業所に連絡があり、障がい福祉課にも連絡をするとのことだった。障がい福祉課へは事業所からも連絡をし、事情を説明。事故報告を提出している。

今後の対応としては、外部委託業者への注意と安全な運転業務の徹底をお願いした。

## 令和6年度「ヘルパーステーションおおほり」事業報告

### 1. 事業報告

令和6年度は、常勤職員3名、登録ヘルパー1名で運営をスタートしている。パート職員の離職があり、常勤職員中心の運営となった。常勤職員が1名増えたことにより、引継ぎを行い、支援時間の確保及び緊急時等の対応をすることができた。常職職員が全て男性のため、男性利用者中心の支援となった。

新規職員（女性）の採用や登録ヘルパーの採用にも注力したが、働く時間が不規則なこともあってか応募にはつながらなかった。年度末に女性の登録ヘルパー1名の応募があったため、次年度より引継ぎを行っていく。

人材育成に関しては、職員の資質向上を図るため、研修情報の収集と周知を行った。また、常勤ヘルパーについては月1回の会議は情報発信ツールを活用し、毎月行うことができた。必要に応じて、利用者情報の引き継ぎ資料の作成をし、支援への不安解消と質の向上を図った。

### 2. 契約・支援実績

令和6年度				
支援体制	常勤 3名	パート 0名	登録 2名	法人職員 1名
利用契約者数	児童 1名		成人 47名	
延べ利用者数	473人		1日平均利用 3.3人	
稼働時間	常勤職員		月平均 92.1時間	
	パート職員		月平均 0時間	
	登録ヘルパー		月平均 5.3時間	
	法人職員		月平均 1.7時間	
総時間数	3419.5時間			

### 3. サービス別実績

	令和5年度	令和6年度
サービス	サービス合計時間（年）	サービス合計時間（年）
移動支援（身体）	905時間	1184.5時間
移動支援（身体なし）	235時間	222時間
家事援助	272.5時間	256時間
行動援護	468.5時間	486.5時間
私的利用	44時間	26.5時間
重度訪問介護	38時間	50時間
身体介護	1225.5時間	1190時間
通院介助（非身体）	2時間	0時間
共同支援	0時間	4時間
合計	3190.5時間	3419.5時間

#### 4. 職員配置

管 理 者 : 1 名

サービス提供責任者 : 1 名

常勤ヘルパー : 2 名

登録ヘルパー : 2 名

#### 5. 苦情対応 なし

## 令和6年度「福岡市立つくし学園」事業報告

### 1. 目的及び運営方針に基づく実績報告

令和6年度においては、感染症対策を講じながら従来の地域での自立実現に向け、利用者・職員の安全を第一に取り組みを行った。利用者活動においても新型コロナウイルス対策として休止、中止していた行事についても、利用者の安全な活動を最優先とし、支援する職員の安全面にも十分に配慮した上で利用者の作業、余暇の充実と自立生活の実現に向けて、従来の活動および事業運営ができるよう、内容を考慮しつつ実施した。

また、令和6年度においては指定管理選定の年でもあり、指定管理の応募を行い、令和7年度からの指定管理についても受託している。

### 2. 課題の取り組みに係る実績報告

#### (1) 利用者主体の支援

サービス等利用計画における総合的な援助の方針に基づき、ニーズに応じた適切な個別支援計画を作成するとともに、一人ひとりの状況に応じた地域生活の実現を目指し、相談支援専門員との連携と社会資源の活用を通して、自己実現に向けた取組の実施に努めている。

また、多機能事業所としての機能を活かし、個々のニーズに応じて関係機関を含めた協議のもとサービスの事業変更を行い随時ニーズに応じたサービスの提供を行えるよう努めている。

#### (2) 個別支援計画及びケース会議

作業班ごとのケース会議および全体の職員会議をメインに各利用者の情報共有を図り、支援方法の協議や意見交換を行っている。あわせて、職員全体での共有事項については、支援方法のマニュアルの作成および共有の徹底を図っている。

また、理事長とのP B S研修を職員会議日にて定期的実施し、困難ケースの課題解決に努め、職員全体で利用者のより良い支援の提供につながるよう取組んだ。

#### (3) 保護者等との連携

支援員と保護者との相互理解と信頼を深めるため、日々の連絡帳による家庭との連携を中心に、家庭状況にあわせてメール等を活用し柔軟に連絡が取れる体制を構築している。作業見学会を2回実施、2回ともに作業見学会とあわせて保護者懇談会を実施し、活動状況の確認や職員とのコミュニケーションを図った。また、年に2回の個別面談を活用し、家庭の状況を踏まえ、将来的な不安や悩み等の相談を受け、必要に応じて通所事業所として可能な範囲での対応を行った。

#### (4) 利用者自治会の活動推進

年度当初に利用者自治会メンバーを選出し、作業班ごとに行事や余暇活動等の実施について自治会メンバー中心に話し合いを行い実施した。今年度においては、つくしんぼツアーの行先について、月々の目標設定を行い、利用者が中心となって意見を出し合える場となっている。

#### (5) 支援員の育成と資質向上

職員育成として法人全体研修をはじめ、社会就労センター協議会の調査・研究・研修委員としての活動を行うこととあわせて、外部研修として社会就労センター協議会、福岡県知的障がい者福祉協会等への研修へ参加した。

#### (6) 施設整備の推進

建物自体の老朽化が目立っており、都度、改修・修繕等を市、又は法人にて実施している。

今年度においては、福岡市によるトイレの改修工事に年度下半期にて着工予定であったが、入札不良により延期されたものの4月より着工している。あわせて法人で館内のカーペ

ットの張り替えを実施した。

また、グラウンドの雑草については、保護者会の協力を得て除草作業を行うとともに、後期には業者による除草作業を実施している。

#### (7) 地域との連携強化

当学園の最大の地域との交流行事である「つくしんぼ祭り」を5年ぶりに実施した。延べ800名ほどの来場者となり賑わいを見せ、地域住民の方からも好評をいただいた。地域での多くのイベントについては、町内会や公民館との連携を図り、地域住民として、学園が持つ機能や役割について、十分な安全対策を講じながら、地域の方々のニーズに応えられる活動を行えるよう、地域行事への参加を積極的に行った。また鳥飼校区の人権尊重委員会の委員として会議・研修会・地域イベントへの参加も行っている。

利用者の活動においても、公民館の学習室を借用しての調理体験を行うなど、地域公共施設からの理解・協力を得て活動できている。

#### (8) 活動内容の充実

コロナの影響を受けての請負作業の減少に伴い、従来の請負作業に加えて新規作業の導入に努めた。つくし学園での従来の作業としてパン製造・自転車再生作業・その他請負作業を行っているが、令和6年度においてはパン製造職人が入院治療で長期休暇を取られたことで、パン製造を1か月休止し調整したことの影響が続き、パン製造での売上低下が続いている。その他請負作業においては新規作業の導入も行っており、利用者の活動内容としては充実してきているものの、売上向上には至っていない。

##### 【新規作業内容】

・チラシ配布      ・手芸品セット作業      ・オンラインショップ商品の梱包作業      等

#### (9) 新規利用者の確保

令和6年度は自立訓練で2名、就労継続支援B型で1名が新規で利用開始されているが、自立訓練の新規利用者1名は体調不良による療養のため、退所となった。

特別支援学校からの実習受け入れを積極的に行っているものの利用には至っておらず、作業内容等の工夫を検討していく。

#### (10) 地域における生活の場の整備

本人・ご家族のライフステージの変容に伴い、グループホーム利用者が増えている。グループホームへの入居を見据えたグループホームの体験利用等も増えており、グループホーム利用時の送迎に対応している。また、各々の家庭状況に応じて様々な支援機関との連携を図り支援を行っている。

【GH入居者】20名（9事業所） 10名（4事業所）

### 3. 重点目標の達成に係る実績報告

#### (1) 事業別利用者定数と利用者数及び出勤率（令和6年3月末）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
契約者数	57	58	60	60	60	60	59	59	58	58	58	56	平均
出勤率	88%	92%	84%	90%	73%	85%	90%	86%	90%	84%	85%	89%	86.3%

※新規利用者3名 退所者4名（病気療養1名、就職者3名）

#### (2) 就労移行支援事業

職場見学／8名 職場実習／4名 採用面接／4名 採用／4名 退職／1名

令和6年度は、就職者の実績は4名（うち1名はトライアル雇用での終了）となっている。

就職者の目標は達成しているものの、就職による退所後の新規利用者の確保までは至っていない状況で定員割れが続いている。就職活動についてはハローワークでの求人相談を

中心に関係機関との連携のもと行うことができている。

定着支援については、職業センターとのペア支援でのジョブコーチ支援を実施し、令和6年度においては2件継続している。

(3) 就労継続B型事業

利用者一人ひとりの状態に応じて、各作業グループの特色を活かした作業種目を提供し、「社会との接点」「働く事での成果・喜び」を実感できる様に支援を行っている。また、利用者の可能性を引き出すための環境設定や個々のスケジュールを提供し、作業活動が円滑に行われるように配慮をし、徹底した感染防止策を継続して取り組んでいる。既存作業の作業量が減少していることもあり、地域企業や個人事業主からの新たな請負作業も積極的に導入している。さらにコロナ禍では出店を控えていたイベント関係への出店も従来通り行っている。

(4) 自立訓練事業

利用者の生活環境や健康面への配慮を行い、病院受診への同行、服薬管理における支援、行政を含む関係機関との連携を行いつつ支援を行っている。

利用者個々の意向や状況を踏まえ、都度相談支援センターとの協議を行い必要なタイミングにて事業変更を行いサービスの提供を行っている。

(5) 売上実績

4月	5月	6月	7月	8月	9月
¥1,026,097	¥900,592	¥915,106	¥960,318	¥730,007	¥921,825
10月	11月	12月	1月	2月	3月
¥1,276,716	¥980,620	¥512,987	¥587,504	¥704,325	¥852,479
合計					¥10,368,576

(6) 工賃実績

4月	5月	6月	7月	8月	9月
¥664,615	¥563,510	¥576,458	¥544,883	¥506,404	¥525,236
10月	11月	12月	1月	2月	3月
¥760,674	¥728,381	¥471,720	¥336,886	¥496,131	¥499,658
合計					¥6,674,556

5. その他実績報告

(1) 主な事業内容および研修実績

月	つくし学園	地域関係 (参加のみ)	外部研修等参加
4			就労協調査研究研修委員会
5	歯科健診 保護者会合同草刈り		
6	作業見学会懇談会週間	人権尊重推進協議会総会	社会就労センター施設長会議 就労支援スキルアップセミナー 社協新任職員研修
7	ブラッシング指導 保護者会懇親会	人権尊重推進協議会	工賃基礎研修 (ZOOM)
9	つくしんぼツアー 前期個別面談 障がい者スポーツ大会	鳥飼校区人権コンサート 鳥飼小学校見学受入	
10	避難訓練	鳥飼秋祭り まつり草ヶ江	
11	つくしんぼまつり 障がい者スポーツ大会		

1 2	作業見学懇談会給食試食会		社会就労センター職員会議
1	新年会 避難訓練	鳥飼校区新春のつどい	
2	後期個別面談	人尊協フィールドワーク	安全推進者研修
3	避難訓練		県知協施設長研修 社会就労センター職員研修

※パン店頭販売：毎週火・木曜日 ※自転車販売：開所日

※職員会議・全体ケース会議：月2回(第1・4金曜日) 利用者13:30降園

※クラブ活動(1回/毎月実施) ※グループ別余暇活動：3ヶ月に1回程度

※PBS研修(5月・7月・8月・12月・1月・3月 ※10月おおほり苑理事長研修に合同参加)

## (2) その他

- ・保育実習…精華女子短期大学(3名)・中村学園短期大学(2名)・西日本短期大学(2名)  
福岡女学院大学(1名)・総合学園ヒューマンアカデミー(1名)  
西日本短期大学1日体験(7名)
- ・介護等体験…九州産業大学(1名)・星槎大学(1名)・中村学園大学(13名)  
西南学院大学(4名)・福岡女学院大学(1名)・山口短期大学(1名)  
環太平洋大学(1名)
- ・見学受入…特別支援学校(福岡中央・生の松原・博多高等学園)・中央区民生委員  
鳥飼小学校2年生・佐賀県身体障害者団体連合会・韓国社会福祉政策研究院等

## 6. 苦情対応 なし

## 令和6年度「くれふる」事業報告

### 1. 目的及び方針に基づく事業実績報告

#### (1) 個別支援計画の充実

- ・ 保護者面談については、サービス等利用計画のモニタリング時期に合わせて実施。保護者が遠方にいる場合や、対面面談を希望されない場合は、電話及び書面で実施した。
- ・ P B S (ポジティブ行動マトリクス) については、適宜更新し、抽出された課題点や、自発的行動を、日々の支援や個別支援計画作成に活かしている。

#### (2) 支援体制・組織の活性化

- ・ 各種会議を通して職員間のコミュニケーションを図り、課題の共有を行った。
- ・ 定期的に管理者、係長で会議を行い、利用者や職員の状況把握、課題の解消を図った。
- ・ 移転においては、管理者、係長以外に、リーダー職員を2名選出し、円滑に移転を進めるための移転会議を定期的に実施した。

#### (3) 日中活動の質の向上

- ・ 過去5年間の作業収入内訳及び令和6年度の作業総収入と平均工賃支給額

年度 作業項目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
空き缶	55,379	107,936	132,677	101,482	111,232
お助け隊(車イス修理含)	24,020	0	6,210	9,000	6,500
手芸(紙漉き含)	7,750	39,900	108,700	84,450	97,650
シマ商事	331,611	267,283	383,171	343,822	376,279
溝端紙工	120,450	77,990	112,380	108,810	29,370
小野電機	0	179,750	199,270	268,325	297,286
オリジナルTシャツ	0	56,800	0	0	0
ヨシケイ	449,697	425,000	284,256	240,010	209,280
ポスティング	0	0	1,500	3,900	3,900
収入計	988,907	1,154,659	1,228,164	1,159,799	1,131,497

\*令和6年度総収入 1, 1 3 1, 4 9 7 円 (※昨年度総収入 1, 1 5 9, 7 9 9 円)

\*令和6年度平均工賃 2, 3 4 1 円 (※昨年度平均工賃 2, 7 3 2 円)

- ・ 各々の作業スペースの見直しなど、環境調整を図り、利用者一人ひとりが安心感をもって活動できるように心がけた。
- ・ 隔週金曜日の午後に「くれカフェ」を行い、作業の合間にお菓子やジュースを飲食し、くつろぐ時間を設けた。利用者にカフェの店員になってもらい、S S T場面として活用することや、個別活動が多い利用者の小集団への参加の機会にもなっている。
- ・ 余暇活動として、小グループでの一日外出、くれふる縁日、くれカフェB I G、スペシャルお弁当デー等を企画し、実施した。
- ・ 利用者、保護者、職員の合同親睦会(B B Q大会)をオイスカ西日本センターで行った。
- ・ 地域お助け隊の買い物代行支援については、地域の高齢者宅から1~2ヵ月に1回程の頻度で依頼があっている。

- ・ 昼食のお弁当については、11月より(月)をライフデリ→まごころ弁当に変更している(1食600円)。(火)~(金)は引き続き、就労支援継続B型事業所とろわに依頼しているが、原材料費高騰に伴い、令和7年度に50円値上げになる予定(1食650円)。
- ・ 手芸品を就労継続支援B型事業所とろわのカフェや菜の花作業所(さわちゃんたこ焼き)の店内にて委託販売してもらい、商品の納品等を利用者に行ってもらった。四箇田の地域交流センター「ともてらす」での販売にも、1回参加した。

#### (4) 安心・安全な環境整備

- ・ 感染症防止講習等を行い、職員の感染症防止に対する意識向上に努めた。
- ・ 館内消毒の徹底等、感染対策を施し、感染症防止のための衛生管理を行った。
- ・ 保護者会助成により、館内除菌ワックスがけとエアコン清掃を各1回行うことができた。
- ・ 移転については、8月に建物の建設を開始し、1月末に完成、2月下旬より利用者の移転を開始し、3月に完了している。移転によって、環境における課題(災害のリスク・建物の老朽化・個々の利用者の環境課題)については、概ね解消することが出来た。

#### (5) 地域との交流

- ・ 早良区内の福祉事業所間のネットワーク(凸凹ネットさわら、よかどこネットさわら)に引き続き参加している。凸凹ネットさわらについては、事務局を務める年(2年目)であったため、当法人の早良区所在事業所(なごみ・ももち福祉プラザ)や、他の事務局事業所と協力し、ネットワークの運営や活動(スポーツ交流会・施設紹介・研修等)の企画を行った。
- ・ 移転を踏まえ、早良平尾地域への感謝を形にするため、くれフェス(地域の方向けの祭り)を8月に実施した。16時~19時の3時間という短い時間の祭りであったが、約140名の来場があり、過去最高の来場者数となった。

### 2. 重点目標の達成に係る実績報告

利用者が目標を持って作業に取り組み、余暇活動を楽しめるという点においては、引き続き、作業工賃だけでなく、トークンシステムを用いた個別の報酬形式を取り入れる等、個々の利用者に適した方法で、見通しとモチベーションを持って作業に取り組んでもらえるよう心掛けた。また、利用者が主体的にくれふるで過ごすことができるようになるため、PBSの作成や検討会において、細かなアセスメント取りや支援方法の検討を行い、適切な自発的行動を増やすべく支援を実践していった。余暇活動においては、小グループで利用者の嗜好にあった外出を提供する一日外出や、例年行っている縁日等の季節行事、オイスカでのBBQ大会(合同親睦会)を実施することが出来た。

職員がやりがいを持って支援に取り組める環境とチーム作りにおいては、管理者と係長で、利用者を二分して受け持ち、窓口となることで、担当職員が個別支援計画作成や支援上の課題点等を相談しやすくなるような体制を作ったが、移転という定形外の業務があったことで、上手く機能させることが出来なかったという反省がある。今後は、移転を機に選定したリーダー職員2名にも職員育成に密に携わってもらうことを目標とし、発展的なチーム作りを目指していく。

### 3. その他実績報告

#### (1) 年間行事実績

	くれふる	保護者会	地域関連
4月		第1回役員会 総会	よかどこネット定例会
5月	避難訓練		地域清掃

			凸凹ネットワーキング会議
6月	一日外出①	第2回役員会	よかここネット定例会
	一日外出②	第1回定例会	
7月	一日外出③		凸凹ネットスポーツ交流会
8月	新くれふる建設開始		よかここネット定例会
	職員定期健康診断		
	くれフェス		
9月	一日外出④	第3回役員会	凸凹ネットワーキング会議
	内科検診		
	くれふる縁日	抗菌ワックスがけ	地域清掃
	一日外出⑤		
10月	レントゲン撮影	エアコン清掃	よかここネット定例会
	一日外出⑥		
	一日外出⑦		
11月	合同親睦会		凸凹ネット施設紹介
	避難訓練		人権フェスタパネル展示
	一日外出⑧		
	一日外出⑨		
12月	一日外出⑩	第4回役員会	よかここネット定例会
	くれカフェBIG	第2回定例会	
	総合避難訓練		
1月	新くれふる建設完了	役員選出委員会	凸凹ネット研修会（中止）
2月	移転開始		凸凹ネットワーキング会議
			よかここネット定例会
3月	移転完了	第5回役員会	
	スペシャルお弁当デー		
	スペシャルくれカフェ		

## (2) 研修他実績

内部会議・研修	
職員会議（行事予定、事務分掌、研修、安全衛生委員会等）	計画通り実施
ケース会議（個別支援計画、事例検討、問題解決等）	
リーダー会議（情報共有、課題解決、虐待防止・身体拘束適正化委員会等）	
移転会議	
PBS検討会（事前討論4回、検討会4回実施）	
感染症BCP研修	12月実施
災害BCP研修	3月実施
虐待防止・身体拘束適正化研修	1月実施（法人研修）
嘱託医勉強会	3月実施

### ○外部研修

- \*安全運転管理者等講習 1名
- \*強度行動障がい者支援者養成研修 1名
- \*社会福祉士実習指導者講習会 1名

## (3) 利用者の状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	延数
契約者数計	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	32	
開所日数	22	22	20	23	18	21	23	21	20	20	20	20	250
平均利用者数(1)	22.3	24.3	23.7	23.5	22.7	23.6	23.9	22.9	23.7	22.7	22.1	24.4	23.3
平均利用者数(2)	29.2	31.6	31.1	31	30.5	30.9	28.2	30	31	29.3	30.3	30.7	30.3
出席率(1)	67.4	73.6	71.6	71.1	68.6	71.2	72.1	69.4	71.6	68.5	66.7	76.2	70.7
出席率(2)	88.3	95.6	94.2	93.7	92.4	93.4	85.2	90.9	93.8	88.8	91.7	95.9	92

\*平均利用者数（2）及び出席率（2）は、旧計算法での数値。

\*2月、1名退所。

\*台風のため、8月30日休所（1日）。

\*3月より、定員30名→40名に変更。

#### （4） その他

- ・ 実習生受け入れ  
    ソーシャルワーク実習（フチガミ医療福祉専門学校1名・西九州大1名）
- ・ 車輻事故報告 4件
- ・ その他事故報告（転倒） 1件
- ・ 苦情対応件数 0件

## 令和6年度「児童発達支援センターこだま」事業報告

### 1. 基本方針

個々の障害の状態及び発達の過程・特性等に応じた療育を行い、見通しを持つ力やコミュニケーション力、身辺処理の力、集団参加の力など、個別支援計画に沿って発達支援に取り組んだ。また、ご家族の不安や悩みなど、定期的な個別面談以外にも話す機会を設け、家族で抱え込まないように配慮し、相談対応を行ってきた。地域連携については、隣接する板付中学校校長や地域民生委員の方に当施設の第三者委員に就任していただいているが、当施設の専門性を発揮する機会がなく、引き続き地域との繋がりを模索していく。

### 2. 障がい児通所支援事業について

#### (1) 重点目標の達成状況

目標①：アセスメントを強化し、目標を保護者と共有する。

⇒ 保護者からの聞き取りや、観察によるアセスメントを行い、子ども一人ひとりの強みや効果的な支援ポイントを明確にした。保護者の願いとアセスメントの結果から設定した目標について、その達成、未達成の進捗状況を年間を通じて丁寧に保護者へ説明し、共通理解を得た。

目標②：余暇活動支援の強化

⇒ 保護者との面談の機会を多く持ち、家庭の様子や情報を共有することができた。子どもが一人で適切に過ごすための活動を見つけ、広げることに努め、こだまで行っていることが家庭でも行われ、過ごせるよう取り組んだ。

目標③：ペアレントトレーニングを実施し、主体を職員に段階的に移行できるようにしていく。

⇒ ABAをベースとして、子どもの行動に着目し、適切行動を増やすための工夫や、不適切な行動への対応について、保護者自身が自分の関わりを振り返り、様々な気づきを得るよう支援した。主体を職員に移行する取り組みは未達成であった。

目標④：父親が子育てに参加する機会を増やす。

⇒ 父親参観や一日通園体験などで父親が子育てに参加できる機会を提供した。父親参観での昼食を他の保護者、園長を交えて行い、父親間の意見交換を行ったが、さらに父親同士の交流の機会を模索していきたい。

目標⑤：記録様式を見直し、記録にかかる時間を省力化し、時間外勤務を減らす。

⇒ 支援記録のほかに、各種委員会や研修への参加が義務付けられ、記録の分量が増えているため、細かく取り組む必要がある記録と省力化できる記録とに分け、法人全体の取り組みとして研修の一部をオンラインで参加できるようにし、参加感想など提出物にかかる時間を省力化した。

(2) 障がい児通所支援事業実績

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	年間
在籍(人)	24	24	25	25	25	26	26	27	28	28	28	28	累計 314
療育日数	20	21	20	23	16	20	22	20	16	16	18	15	総日数 227
出席率(%)	89.6	89.8	85.5	84.0	81.0	90.4	90.1	83.7	84.3	67.4	77.4	78.8	83.5

3. 障害児相談支援事業について

前年度卒園された園児については、継続して相談支援を行っている。

令和6年度末で移管した卒園児は4名で、現在の契約者数は49名、4月に1名契約、9月に3名契約予定。

4月	計画案作成・在園児担当者会議・卒園児担当者会議・モニタリング	12件
5月	計画案作成・卒園児担当者会議・卒園児モニタリング	22件
6月	計画案作成・卒園児モニタリング	6件
7月	卒園児担当者会議	1件
8月	卒園児モニタリング	3件
9月	新入園児契約及び家庭訪問	22件
	計画案作成・卒園児担当者会議・卒園児、在園児モニタリング	12件
10月	計画案作成・卒園児担当者会議・卒園児モニタリング	12件
11月	計画案作成・卒園児モニタリング	4件
12月	計画案作成・卒園児、在園児モニタリング	17件
1月	計画案作成・担当者会議・卒園児、在園児モニタリング	16件
2月	エリア外新入園児契約及び家庭訪問	6件
3月	計画案作成・卒園児担当者会議・在園児、卒園児モニタリング	30件

4. 保育所等訪問支援事業

保護者からの求めにより、保育所等訪問支援事業を利用するケースはなく、未実施であった。

令和7年度は保護者から2名依頼があった為、保育所等訪問を実施予定。

## 5. 年間行事及び職員研修実績

月	実施した主な通園行事	職員研修実績
4	新入園児通園オリエンテーション、入園式、聞き取り面談	
5	誕生会、前期目標面談、遠足	相談支援従事者初任者研修、長崎大学 eラーニング（～3月まで）
6	父親参観、定期健診	感染症予防研修（内部）、TEACCH に学ぶ勉強会
7	プール開き、小児科診察会、中間面談・年長児お泊り会、進路面談	TEACCH に学ぶ勉強会
8	誕生会	TEACCH に学ぶ勉強会
9	秋祭り、歯科検診	
10	総合避難訓練、後期目標面談、誕生会	交流研修、救急救命研修
11	秋の遠足	交流研修
12	誕生会、中間面談、もちつき、クリスマス会（動画にて配信）	単独研修会、サービス苦情研修、感染予防研修
1	誕生会	
2	誕生会、豆まき、定期健診、総合避難訓練、後期のまとめ	合理的配慮から考える支援について
3	サポートブック面談、卒園式	

\*年間を通じたオンライン研修 11講座

\*保護者勉強会（6月：就学について／9月：放デイについて／10月：OT 学習会／11月：ST 学習会）

\*毎月1回避難訓練実施

\*療育センター言語聴覚士訪問による施設支援 年3回

\*療育センター作業療法士訪問による施設支援 年7回

\*ペアレントトレーニング（全10回コース）を2グループに分けて実施。

## 6. 苦情対応 なし

# 令和6年度「福岡市中央区障がい者基幹相談支援センター」事業報告

## 1. 基本方針・運営方針に基づく事業報告

中央区障がい者基幹相談支援センターでは、障がいのある方（障がい疑いを含む）が地域生活を行う上で生じる様々な課題や希望に沿って相談支援を実施する総合相談（委託相談）、福祉サービスまたサービス全体をコーディネートを行うサービス等利用計画の作成、地域の体制づくり、地域生活拠点整備等について取り組みを行った。

## 2. 課題の取り組みにかかわる実績報告

### (1) 福岡市障がい者等地域生活支援協議会の運営

福岡市障がい者等地域生活支援協議会の中央区部会事務局として、ちゅうちゅうネット研修会を中央区内の福祉サービス事業所や関係機関を中心とした研修会の企画運営を行った。中央区部会では、中央区障がい者基幹相談支援センターを軸に行政、学校、社会福祉協議会、発達障がい者支援センターとともに、福岡市の地域課題や事業所・相談事例から抽出された課題の整理・検討を行いネットワーク活動を通じて、地域の課題解消に向けた取り組みを行った。また、中央区内の指定特定相談支援事業所への専門的助言や指導、人材育成を目的とした、いもどりネット研修会の企画運営とグループスーパービジョン研修会を実施した。さらに、障がい者地域生活支援拠点等の整備に向け、拠点登録の推進と周知活動を行うとともに、城南区、南区と合同で研修会等を行った。

### (2) 相談支援体制の機能強化

中央区障がい者基幹相談支援センターには8名のコーディネーター（管理者・センター長・相談支援専門員は兼務）を配置し、総合相談、地域の体制づくり、指定特定相談・指定一般相談を担ってきた。コーディネーターの大半は経験が浅く、総合相談・地域の体制づくりにおいても知識、経験共に不慣れな点も多くあるため、週に一度のケース検討を実施し事例検討とグループスーパービジョンを行った。また、コーディネーター研修、外部研修など様々な機会を活用し、相談支援専門員及びコーディネーターの質の向上を図った。

### (福岡市障がい者等地域生活支援協議会の実施・参加状況)

会議・ネットワーク名	出席回数	主な内容
中央区部会	6回/年	実績報告、地域課題の検討、地域の体制づくり等
中央区部会事務局会議	12回/年	区部会開催に向けた整理・検討
中央区部会事務局運営会議	12回/年	事務局会議に向けた課題整理及び検討
ちゅうちゅうネット研修会	1回/年	中央区内にある事業所に対する当センター主催の研修会（ポスター発表）
福岡市障がい者等地域生活支援協議会	2回/年	福岡市における相談支援体制、地域課題の検討等
事務局合同会議	3回/年	基幹相談支援センターの全Coによる、地域生活支援協議会に向けた課題整理・検討

主任コーディネーター会議	9回/年	各13基幹主任Co、市基幹、所管課による活動実績の進捗状況及び連絡確認事項、緊急拠点の実績報告等
エリア合同研修	1回/年	エリア内の相談支援事業所に対する、クライシスプランの検討及び緊急時対応の現状について
センター長会議	1回/年	市基幹相談および虐待防止センター運営会議、区基幹相談支援センター及び地域生活支援拠点の運営について
地域生活支援拠点等整備検討部会	4回/年	地域生活支援拠点整備について
中央区精神医療・保健・福祉ネットワーク交流会	4回/年	中央区保健福祉センターと連携し、精神保健にかかわる専門職向けの研修会
Fネットケース会議	6回/年	福岡市弁護士会所属弁護士との法律相談およびケース検討
中央区校区民生・児童委員協議会	2回/年	中央区にある各校区で開催される地区民児協への参加
笹丘校区地域包括委員会	4回/年	笹丘校区自治協議会主催の包括委員会への出席
中央区要保護児童支援地域協議会	1回/年	児童の権利擁護にかかわる関係機関による協議会

### 3. 重点目標の達成状況報告

#### (1) 認定型地域生活支援拠点事業所の整備促進

障がい者地域生活支援拠点等に登録を頂いている事業所へ聞き取り等を行い、課題共有を図った。また、研修会を実施し拠点事業所の登録拡充と周知活動を行った。

#### (2) 中央区部会の活性化

中央区部会の運営について、中央区福祉介護保険課、中央区健康課、中央区社協、こども療育相談室、中央特別支援学校、発達障がい者支援センターの各委員とともに地域課題について検討を行った。また、福岡市の地域課題におけるテーマをもとにネットワーク活動や区内における体制整備や連携体制の構築などを行った。

#### (3) 相談支援事業の体制整備

中央区障がい者基幹相談支援センターの委託事業を安定して運営できる基盤作りを実施するために、研修会の実施、グループスーパービジョンの実施を行った。指定特定相談支援事業所の部門については、3人のコーディネーターを中心に計画的にサービス等利用計画作成ができる体制をとった。また、サービス等利用計画作成については、全コーディネーターが計画作成できるように引継ぎ等を行った。

(4) 相談支援専門員の育成

相談支援専門員とコーディネーター職員の相談員としての育成について、日々のケースワークを通じたOJTに加え、ケース会議、事例検討会、コーディネーター研修、グループスーパービジョン研修など様々な研修を実施し、育成を図った。

<資格取得・更新研修>

研 修 名 等	受講
相談支援従事者初任者研修	2名
主任相談支援専門員養成研修	1名

4. 事業別実績報告・利用者状況報告

(1) 委託相談

(ア) 相談利用人数

		実人員	身体	重心	知的	精神	発達	高次脳	その他
R5	障がい者	284	49	1	52	183	39	0	12
	障がい児	13	1	0	4	3	5	0	1
	計	297	50	1	56	186	44	0	13
R6	障がい者 (新規)	321	49	1	49	219	44	3	10
	障がい児 (新規)	31	1	0	4	16	15	0	0
	計	352	50	1	53	235	59	3	10

(イ) 相談内容実績

(件)

	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l	計
R5	2339	515	688	598	21	224	527	111	124	61	121	612	5,941
R6	1,844	823	761	952	34	367	368	151	256	68	89	455	6,168

(支援内容の項目)

a. 福祉サービス利用等に関する支援	b. 障がい・病状の理解に関する支援	c. 健康・医療に関する援助
d. 不安の解消・情緒不安に関する支援	e. 保育・教育に関する支援	f. 家族関係・人間関係に関する支援
g. 家計・経済に関する支援	h. 生活技術に関する支援	i. 就労に関する支援
j. 社会参加・余暇活動に関する支援	k. 権利擁護に関する支援	l. その他

(2) 計画相談支援

令和7年3月末時点	サービス等利用計画作成者	138人
-----------	--------------	------

(3) 地域移行支援・地域定着支援

令和6年度実績なし

5. 苦情対応 なし

## 令和6年度「地域生活支援拠点事業所四箇」事業報告

### 1. 基本方針・運営方針に基づく事業実績報告

「どんなに重い障害があっても、地域で当たり前の生活を送る」という人としての生きる原点を基に、障がい者のライフステージにおける個々のニーズに沿った各種支援事業を行うこと掲げて取り組んできた。今後の四箇事業の展開を意識し、グループホームなごみでは利用者の行動障がいの軽減、適切行動の形成を図るため、細やかな記録と分析を行い、理論に基づいた実践に取り組んでおり、そのための職員育成および外部研修への積極的参加、情報発信に努めてきた。短期入所ポノにおいては緊急利用への対応が迅速に図れるよう、法人職員一丸となって人員体制の強化を図ってきた。

### 2. 重点目標の達成状況報告

支援体制、組織の活性化を重点目標とし、職員へ支援技術の向上や地域生活の拠点としての意識の醸成に取り組んだ

#### (1) 利用者活動の充実

##### ア. 休日時の活動

###### <グループホームなごみ>

週末や休日の活動について、事前に活動計画を作成し、担当職員へ周知。活動計画策定については利用者が参画し、主体的に決めることができるように情報提供等の提示の方法に配慮した。また、日中通所事業所との連携を図り情報共有を実施。身体機能の維持向上を図るため、近隣の社会資源（公園やコンビニ等）を活用した。新型コロナ等各種感染症の影響は残るものの、徐々に行事活動を実施している。

###### <短期入所ポノ>

短期入所利用中の活動については、事前に支援計画を作成し担当職員へ周知。ご家族の要望と本人の意向を考慮して活動を計画した。また、日中通所事業所との連携を図り情報共有を実施。なごみ利用者同様、身体機能の維持向上を図るため、近隣の社会資源（公園やコンビニ等）を活用した。

##### イ. 利用者受け入れ人数の拡大

###### <グループホームなごみ>

職員体制の課題があり計画通りの入居が進まなかった。

###### <短期入所ポノ>

職員体制の課題があり、緊急時利用のみの受け入れとなった。

##### ウ. 医療機関との連携

令和5年10月より開始した訪問看護（令和6年12月より事業所変更）を積極的に活用することで、利用者の日々の健康管理や加齢に伴う変化等に柔軟に対応していく体制を整備している。一方で、【別添表1】の示すとおり職員による病院受診同行件数が増加しており、ご本人保護者の高齢化に伴う今後の課題の一つとなっている。

#### (2) 支援体制・組織の活性化

##### ア. 支援者の専門性の向上

- ① 利用者の日々の行動を丁寧に記録し、支援に還元できるよう、日常的にABC分析表や競合行動バイパスモデルの活用、行動マトリクス表への記入を行ってきた。
- ② 定期的に内部研修を行い、職員の知識技術の向上を図った。
- ③ 定期的にケース会議を実施し、実践に即した技術の習得や視点の共有化を図ることで課題場面の早期改善や職員の支援技術の向上を目指した。

- ④ 外部研修に積極的に参加するだけでなく、発表者として話題提供を行うことができるよう、記録の整理や分析、説明技術の向上を目指した。

イ. 職員間の情報共有

「経営会議⇔施設長会議⇔準施設長会議⇔コア会議⇔職員会議⇔棟会議」と情報の伝達や収集、意見や提案等を周知できるように会議の位置づけを明確にした。また、職員の勤務上、全員が集まる機会を設けることが難しいため、情報共有を即時化できるよう Slack、Zoom 等の ICT を活用した。

ウ. 他事業所との連携

日ごろからの情報交換や支援会議、サービス担当者会議等により、定期的に関係各所と個別支援会議を実施し、支援の方向性にズレがないか検証を行った。

(3) 職員のメンタルケア

ア. 勤務体系のあり方

勤務状況の改善（法定時間内の労働時間、36協定の順守）、内部で行う業務、事業所外の職員に依頼する部分等の勤務調整を行い残業時間の軽減、改善を図った。

イ. ストレスマネジメント（チェックリストの定期的な活用）

支援者の感情労働が虐待に繋がる可能性を想定し、一人で抱え込まず何でも相談できる体制を整えてきた。またストレスチェックを定期的に行い、職員の心身の状況に配慮している。

(4) 安心安全な職場環境の整備

虐待防止、身体拘束等の禁止の取り組みとして、障害者虐待防止法やガイダンス、虐待防止センターの役割などについて周知した。

ア. リスクマネジメント

ヒヤリハット報告、事故報告の提出推進を行い、事故を未然に防ぐ体制を徹底して行った。下半期よりヒヤリハット報告の件数が増えたが提出推進の効果と評価している。短期入所ポノの報告書は少なかったが、常にリスクは潜んでいる事を想定して業務に当たった。

令和 6 (2024) 年度の累計

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
事故	1	1	1	1	1	1	0	0	0	1	1	1	9
車両	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2
ヒヤ	0	0	5	1	1	4	4	6	7	8	8	5	49

主な事故内容：誤食、服薬管理、物損、脱走、火災報知器(警備)誤報、交通違反など

イ. 感染症対策

清潔保持や感染症予防のため、日々の検温や玄関でのアルコール消毒の徹底、手洗いうがいの励行、館内の消毒、定期的な抗原検査の実施などについて、マニュアルの作成と周知徹底を図った。また、利用者が感染症に罹患した際の対応等、マニュアルやフローチャートを作成した。

・入居者の病気やケガなどの状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
病気	0	0	1	0	1	1	1	1	1	1	2	0	9
怪我	1	0	0	0	1	1	3	0	0	1	1	0	8
コイ	3	0	2	0	2	2	0	0	0	3	3	1	11
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1

・ 職員の病気やケガなどの状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
病気	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2	4
怪我	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	2
コ/イ	1	0	1	0	2	2	0	0	4	0	1	0	11
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

※コ/イ：新型コロナ/インフルエンザ その他：手術、抜歯、発作、採血など

ウ. 防災関連

緊急時対応マニュアル、非常災害時マニュアルの周知徹底を図った。

震災、火災想定訓練、消火器の使用の確認を実施し、職員に事故防止への意識付けを図った。7年度はくれふると協力し非常時に備えた訓練（AED等）を実施している。また飲用水や保存食、非常時トイレ等の備蓄の充実を図った。

- ・ 早良消防署立入検査：7月1日
- ・ 防災訓練：なごみ・こすも 5月23日、3月5日（2回実施）  
谷ホーム 5月1日、3月15日（2回実施）

(5) 地域のネットワークづくり

地域交流（四箇公民館等）について、四箇の地域行事に利用者、職員で参加する事が出来るよう、まずは職員が率先して地域行事に参加、交流し関係性を築いていくことを目的として情報収集に努めた。また、地域ネットワーク（しかたクルーネット：自治協議会、公民館、社会福祉協議会、周辺障がい福祉事業所など）への参画。早良区内の福祉事業所間のネットワーク（凸凹ネットさわら）を活かし、事例検討会等の職員間交流やポノ利用者が関連する事業所との連携を密にした。福岡市民間施設協議会や福岡県知的障害施設協議会等が主催する研修会等を通じて、ネットワークを広げ、利用者及び支援者の質の向上を図った。

<民間協職員部会>

職員部会：7月19日

<しかたクルーネット>

定例会：2か月に1回

四箇田校区 秋祭り：11月16日 シニアフェスタ：11月28日

<凸凹ネットさわら>

ワーキング会議：5月8日、9月11日、2月12日

スポーツ交流会：7月26日 事例検討会：11月13日

3. 事業別実績報告

(1) 利用者状況（令和7年4月1日現在）

ア. なごみ利用者定員

通称	定員	現員数
なごみA（女性）	4	3
なごみB（男性）	4	3
こすもA（男性）	5	5
こすもB（男性）	4	3
こすもC（女性）	4	3
谷（男性）	5	5
計	26	22

イ. なごみ利用者障害支援区分内訳

区分6	区分5	区分4	区分3	区分2	区分1
11	8	3	0	0	0

※なごみ入居者の利用状況詳細は【別添表2】を参照。

ウ. ポノ利用者定員

① 1日3名 (内緊急時床1名)

② 登録者数：94名 ※新規契約を中断しているため前年度と変更なし

おおほり：31名	くれふる：18名	つくし：10名	こだま：2名	法人外：31名
----------	----------	---------	--------	---------

③ 利用実績

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
名	3名	0名	0名	1名	1名	0名	0名	1名	1名	2名	0名	1名
日	7日	0日	0日	9日	2日	0日	0日	2日	2日	4日	0日	2日
緊	3名	0名	0名	1名	1名	0名	0名	2名	0名	1名	0名	1名
キャ	0名	0名	0名	0名	1名	0名						

(2) 職員状況 (なごみ・ポノ兼務)

職名/所属	常勤	非常勤 (世話人・夜間)
管理者	1名	
サービス管理責任者	1名	
なごみA	4名	夜間支援員：1名 (こすも兼務)
なごみB	4名	
こすもA	8名	世話人：3名 夜間支援員：5名 賄い人：1名
こすもB		
こすもC		世話人：2名 夜間支援員：3名
こすもホーム谷		

(3) 利用者受け入れ人数の拡大 (なごみ・ポノ)

ア. グループホームなごみ

職員体制の課題があり、当所の計画通りに入居が進まなかった。令和7年度は人員体制を整え、新規利用者の入居を進めていく。下記の表を参照し人員配置の優先性を検討したが成果は得られなかった

イ. 短期入所ポノ

なごみ同様に職員体制の課題から、利用者ニーズはあるものの、100%稼働が実施できなかった。職員体制を整え、利用者ニーズに応えることができるようにする。

案	内容	必要人員	備考	
①	短期入所正常稼働：月に20~30の利用	4人~	幅広いニーズに応える	
②	ホーム空床の 利用者募集	こすも：男女1名ずつ	2×2	法人利用者の受け皿拡大
③		なごみ：男女1名ずつ	2×2	同上、強行支援の増強
④		セカンド：4名	8人~	同上、強行支援の増強 (要申請)
⑤	365日体制	こすも	2人~	保護者の高齢化を優先
⑥	※段階的に	谷	3人~	保護者の高齢化を優先

#### 4. 研修、見学受入等

##### (1) 外部研修

開催月	研修等名	参加者
5月	福岡市社会福祉協議会新任研修	2名
10月	日本発達障害学会第59回研究大会	2名
11月	強度行動障害支援者養成研修	2名
12月	相談支援従事者現任研修	1名
通年	ABA研修	1名

##### (2) 講師派遣

派遣月	内容	
7月	西日本短期大学	1名
9月～	福岡市障がい者行動支援研修	1名
1月	さわら障がい福祉ネット（シンポジウム）	1名
	福岡市中央特別支援学校 PTA 研修	1名

##### (3) 見学（視察）受入

6月	ヘルパーここに、風ひかり作業所、GH わおん
7月	積水ハウス社員研修
8月	福岡市役所からの聞き取り
9月	葦の家
10月	厚労省、こども家庭庁、秩父学園
11月	東京大学建築学科、あかね園
12月	静岡県浜松市
3月	岐阜県の事業所、熊本と大分の事業所

#### 5. 会議、研修

内部会議・研修	
なごみ AB 棟会議（情報共有、課題抽出、問題解決等）	毎月第2木曜日
コア会議（運営、課題抽出、問題解決、人材育成等）	毎月第3木曜日
ケース会議（行動マトリクス、個別支援計画の検証等）	毎月第3木曜日
職員会議（全体での情報共有、課題抽出、問題解決等）	毎月第4木曜日
こすも職員会議 A	毎月第1火曜日
こすも職員会議 B	毎月第3火曜日
厨房会議	毎月第2木曜日

#### 6. その他

- ・谷ホームスプリンクラー設置（10月下旬～）
- ・こども食堂への駐車場協力
- ・なごみセカンドの賃貸（12月～2月の3か月）
- ・苦情対応 なし

【別添表 1】

病院受診回数まとめ

	精神科	皮膚科	歯科	眼科	内科① 感染症	内科② 感染症以外	肛門科	特定健診・ 脳波検査等	月合計
4月	1		2	1	3		1		8
5月	1	1	3				1		6
6月	1	1	1	1		1	1		6
7月	1	2	1	1					5
8月	1	1	2						4
9月	2		1	1			1		5
10月	2		1	1					4
11月		1	1			3	1		6
12月	2		3	1					6
1月		1	1		5				7
2月	2	2	2				1	1	8
3月		1	3	1				1	6
合計	13	10	21	7	8	4	6	2	71

【別添表 2】

なごみ A	Aさん	ホームで365日生活されている。 GW、お盆、年末年始にご家族と日中外出。
	Bさん	体験利用から段階的に利用日数を増やしてきた。 今後、状況に応じて365日支援体制を検討。
	Cさん	体験利用から段階的に利用日数を増やしてきた。 今後、状況に応じて365日支援体制を検討。
なごみ B	Dさん	ホームで365日生活されている。1~2週間に1回程度、ご家族が週末に来所され一緒に散歩等に出かけている。
	Eさん	ホームで365日生活されている。 GW、お盆、年末年始に父親が来所され交流する。
	Fさん	ホームでほぼ365日生活されている。年間に2~3回、実家に1泊帰省することができるようになってきている。
こすも A	Gさん	週末帰省あり。月に2回の連泊を利用。 ※2024年3月~5月足の手術リハビリのため一時退去
	Hさん	週末帰省あり。月に2回の連泊を利用。
	Iさん	ホームで365日生活されている。 両親不在、きょうだい遠方及び疎遠。
	Jさん	週末帰省あり。
	Kさん	週末帰省あり。実家は市外。 月に2回の連泊を利用。
こすも	Lさん	週末帰省あり。

B	Mさん	ご実家遠方の為、ホームの送迎にて2～3か月に1回1泊2日の帰省。両親不在、帰省時はきょうだい対応。
	Nさん	週末帰省あり。月に2回の連泊を利用。
こすも C	Oさん	週末帰省あり。月に2回の連泊を利用。
	Pさん	ホームで365日生活されている。 両親不在、きょうだい遠方。
	Qさん	ご実家遠方の為、ホームの送迎にて1か月に1回1泊2日の帰省。
谷 ホーム	Rさん	週末帰省あり。
	Sさん	週末帰省あり。
	Tさん	週末帰省あり。母は施設に入っている為、実家に住人おらず、きょうだいの来訪はあるもののほぼ一人で過ごす。
	Uさん	週末帰省あり。 今年の2月ご家族が免許返納された
	Vさん	週末帰省あり。

※谷ホームでは、連泊支援は行っていない。

※週末の支援体制の構築、今後の生活支援の場、人員の確保のための動きが必要。

## 令和6年度「福岡市立ももち福祉プラザ」事業報告

### 1. 目的及び方針

ももち福祉プラザは、福岡市や他機関との共同により、強度行動障がい者支援の中核的な施設として役割を担ってきた。また相談支援機関と連携し、生活介護から就労支援まで幅広い利用に対応した多機能型の事業所に加え、文化教室、余暇支援等を提供する早良障がい者フレンドホームとの複合施設としてのメリットを活かし、障がい者の多種多様なニーズに対応する事業運営を一体的に実施してきた。

令和5年度より指定管理法人の変更に伴い、早良障がい者フレンドホームと運営法人が一元化され、より効率的かつ事業所間の連携を強化した事業所運営を実施すると共に、ももち福祉プラザを安心して利用継続ができるように、安定した運営基盤の確立、支援体制の確保、個別支援の充実・強化に取り組んだ。

#### 事業展開の主な柱

##### (1) 強度行動障がい者の地域生活を支える支援

###### ① 支援困難な強度行動障がい児・者の支援

(ア) 特に配慮を要する行動障がいのある児・者を優先し短期入所・日中一時支援事業で受け入れ行動障がいの軽減と、家族のレスパイト支援を実施した。

(イ) 生活介護作業型においては、利用者が安心・安全に過ごせるように、利用者の特性に応じた環境づくりと共に、個別支援を強化し、より充実した日中活動支援を提供した。

###### ② 強度行動障がい児・者支援に関する支援者育成

福岡市強度行動障がい者支援調査研究会主催のABA（応用行動分析）研修への参加や、事業所・法人内でのPBS研究会、事例検討等を通じ、強度行動障がいのある児者に対し適切な支援を提供できる支援者育成を図った。

また強度行動障がい者に対する施設での支援の実施方法や諸問題などについて研究を行う目的で設置された「福岡市強度行動障がい者支援調査研究会」等の委員を受嘱した。

###### (実施状況及び実績)

- |  |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"><li>○令和6年度障がい者行動支援研修への参加<br/>講義のみ：4名 講師として支援課長参加</li><li>○民間障がい施設協議会人材育成研修・応用行動分析学研修：7名参加</li><li>○民間協行障がい部会研修：2名参加</li><li>○早良区基幹相談支援センター主催「行動障害のある方の地域生活」1名参加</li><li>○強度行動障害者支援者養成研修：1名参加</li><li>○「福岡市強度行動障がい者支援調査研究会」の委員を館長が受嘱</li><li>○「福岡市強度行動障がい者支援拠点運営協議会」の委員を館長が受嘱</li></ul> |
|--|

##### (2) 医療配慮が必要な障がい者の支援

重症心身障がい者等の利用者に、送迎、食事等の介護を行うと共に、創作、レクリエーション、外出活動等の余暇活動を通じて、生きがいを高め、仲間や地域との交流を深め、身体機能や生活能力の維持向上の為、必要な支援や医療ケアを行った。

##### (3) 利用者の多様なニーズに対応する体制づくり

生活介護（活動型、作業型）、就労継続支援B型、就労移行、日中一時・短期入所事業、

早良フレンドホームを運営する複合施設のメリットを活かし利用者の多様なニーズに対応できる体制づくりを行った。

(4) 地域との協働による街づくり（社会貢献活動）

施設が立地する百道浜の地域（自治協議会、公民館、企業等）とともに、定期的な清掃活動や市民行事への参加など地域に親しまれる施設づくりを行うことにより、地域からの発注やリサイクル作業の提供など継続的なサポートを受けた。また、地域の中学校等の体験学習は依頼がなかった。

（実施状況及び実績）

- 百道浜校区清掃活動：月に1回参加
- アルミ缶リサイクル：百道浜公民館に回収ボックスを設置し定期的に回収する
- 百道浜校区夏祭り（7/20）、百道浜公民館文化祭（11/16）への参加
- 百道浜公民館菓子販売月1回
- ももち福祉まつり（10/13）、木陰バザー：随時

(5) 福岡市の障がい福祉向上への寄与

福岡市民間障がい施設協議会の会員施設として、一定の役割を担い福岡市民間障がい施設協議会の活動に関与し、民間事業者との連携を深めながら福岡市の障がい福祉の向上に寄与した。

（実施状況及び実績）

- 福岡市民間障がい施設協議会理事：館長就任
- 福岡市民間障がい施設協議会早良区部会長：支援課長就任

2. 現状の課題と取り組み計画、重点目標

第1期指定管理においては以下の項目に重点的に取り組んだ。

(1) 強度行動障がい児・者の支援の拡充

- ① 生活介護事業や短期入所・日中一時事業における強度行動障がい児・者の受け入れを他事業所と連携して実施し、地域生活支援の充実を目指した。

（実施状況及び実績）

○日中一時支援事業	契約者	140人	（内強度行動障がい	58人）
○短期入所事業	契約者	150人	（内強度行動障がい	59人）
○利用状況	日中一時	274名	（延べ）	
	短期入所	128名	（延べ）	

- ② 強度行動障がいのある児・者に対する適切な支援が提供できる支援者の育成を進めるほか、緊急時や家族のレスパイトに対応できる受け入れ態勢の充実と強化を図った。

(2) 生活介護事業（活動型）の開所日数の拡大

- ① 重度障がい及び医療的なケアを必要とする利用者の日中活動の充実と家族のレスパイトを目的に、年間予定開所日数を令和5年度に引き続き251日まで増加したが、8月に台風接近により休所したため249日となり、また、利用者確保・増員については、1名増となった。

(3) 生活介護事業（作業型）の個別支援の充実・強化

- ① 強度行動障がいのある利用者に対し、個々の特性に応じた環境づくりと、日中活動の充実を進め、利用者一人一人が安心して活動に従事できる支援環境と体制づくりを進め利用者通所率の向上を図った。

- ② 利用者の加齢による障がいの重度化や、保護者の高齢化を見据え、送迎サービスの導入を検討し、介護負担の軽減と安定した通所利用に向けた環境整備を進めた。
  - ③ 他事業所、法人内事業所と連携し、利用者の特性や、ライフステージ、活動内容等個々のニーズに応じた支援を提供した。また、相談支援事業を中心に多機関連携を強化し、本人・家族が安心して地域生活を送ることが出来るよう今後も支援を行う。
- (4) 就労継続支援B型の工賃増及び利用者出勤率の向上
- ① 営業方法の充実や商品開発、期間販促イベントの強化を図り、利用者工賃の向上に努めた。
  - ② 利用者の年齢や健康状態に沿った生活支援と工賃を目的とした作業支援双方の視点で、個々のニーズに沿った支援が提供されるよう、利用者・保護者との対話を強化し、利用者出勤率を向上させ安定した事業所収入の確保を目指した。
- (5) 就労移行支援事業の利用者確保、一般就労及びA型事業所への就労移行支援の強化
- ① 就労移行业業においては、利用から就職までの支援カリキュラムを作成すると共に、利用者獲得に向けたパンフレットを作成し、特別支援学校を中心に、区基幹相談支援センター等関係機関と連携し、利用者の確保を進めたが、今年度については、契約者を増やすことができなかった。

(利用状況)

令和7年3月31日現在

事業名	人数		障がい程度			開所日収		実登所人数	
	定数	契約	重	中	軽	6年度	5年度	6年度	5年度
生活介護(活動)	20	17	17			249	250	2,335	1,994
生活介護(作業)	24	27	25	1	1	250	249	4,471	4,276
就労移行	6	1	1			250	250	249	341
就労B(自主)			21	10	3				
就労B(受注)	50	50	11	3	2	250	250	10231	10,500
合計	100	95	75	14	6	999	999	17,286	17,111

(6) 地域に開かれた施設づくり

- ① 地域の公民館、自治協議会との連携を図り、地域行事・地域清掃への参加、ももち福祉祭りを開催し、地域交流を促進した。
- ② 地域の小学校との交流や中学校の総合学習の受け入れ、小中学校や特別支援学校の教職員研修の受け入れを希望に応じ行った。
- ③ 非常災害時の福祉避難場所として地域の役割を担えるよう準備をした。

(実施状況及び実績)

○施設見学者受け入れ(地域・関係機関・特別支援学校等) R5.4~R6.3 計 121名 ○施設実習(大学・専門学校・特別支援学校等) R5.4~R6.3 計 48名(内当事者4名)
--

(7) 利用者が安心して過ごせる環境づくり

- ① 感染症の感染防止のため、物理的な環境整備、巡回、対策マニュアルについて適宜見直しを図ると共に、虐待防止を徹底し、利用者が安心して過ごせる環境づくりと継続したサービス提供に努めた。
- ② 利用者の定期的な健診を通じ、健康状態を把握し、健康に日々の生活を送ることが出来るよう医療機関、ご家族と連携し利用者の健康維持に努めた。



(4) 生活介護事業

①生活介護作業型利用者の送迎

生活介護作業型利用者の送迎を段階的に行った。

令和6年度目標	令和6年度実績
○西区と城南・中央区の2コースを実施	○西区と城南・中央区の2コースを11月より開始

(5) 就労移行支援事業

①就労に向けての支援等

一般企業への就職を希望する利用者に、就職に必要な知識の習得及び能力の向上のために必要な訓練を実施した。また、就職後においても就労定着のための支援の実施に取り組んだ。

令和6年度目標	令和6年度実績
○就職者数 2名	○ 0名 (A型1名) ○就労者と就労を目指す利用者との懇談会を開催：就労者の集い 令和6年2月12日開催 5名参加

(6) 就労継続支援B型事業

①工賃向上等計画

菓子製造作業においては、新商品の開発（非常用長期保存クッキー等）や簡易作業の充実にを図り、工賃の増を図った。

令和6年度目標	令和6年度実績
○月平均工賃 15,000円 ○新商品の開発、販売 ①長期保存可能なクッキーの開発検討 ②健康志向に合わせ添加物・材料見直し ③季節に応じた限定焼き菓子の販売2~3種 ○新簡易作業等 ④現状の作業内容で価格の見直し・検討等	○月平均工賃 11,829円 ○新商品の開発・販売 ①外部SVと継続協議、新商品の開発について助言を受ける。開発コスト、包装紙、保管場所、販路、広告等複数の要因から、開発・販売については採算が取れないと判断、中止。 ③ ・③新商品：レモンティークッキー カフェオレサブレ ○新規作業等 ④外部委託販売の委託料の見直し（1部） ④新規外部委託販売個所の増加（2か所） ④宅配寿司のチラシ丁合作業を法人内生活介護へ変更 ④新規作業の受注 ・マンション清掃（唐人町）

②新しいロゴマークの検討

現行のロゴマークがももち福祉プラザ開所当初より使用していることから、菓子商品の販売促進、現在の事業に適しているか、再度検証し新たなロゴマークの必要性を検討した。

令和6年度実績
○製造販売会議で継続的に協議を行う中で、お客様に慣れ親しんだロゴを継続的に利用し、新たなロゴマークは、令和7年度より再販売予定のカップ・パウンドケーキ類に使用する。

(7) 行動障がい者の地域生活（日中活動）への支援

もち福祉プラザ生活介護事業作業型において、環境整備や支援の充実を図り、行動障がい者の受け入れを行った。

令和6年度実績
○行動障がい 8名（現員への継続支援）

※行動障がい者の支援に関しては、行動面の分析、課題の整理、支援方法の確立などに時間を必要とする。またプラザ内での支援が定着したとしても、安定した家庭生活を維持できるようになるまでには長期間を要する。

このため次年度についても現在の対象者への継続した支援に努めて行く。

4. その他

(1) 年間会議・研修要領

会議	開催頻度	参加者
法人経営会議	毎月第二 月曜日	館長
施設長会議	毎月最終 月曜日	館長
PBS 研究会	R6.9月 R6.12月	館長・課長・サビ管 担当職員 なごみ 施設長
課内会議（虐待防止・身体拘束適正化委員会含む）	毎週火曜日	館長、フレンド所長、管理・支援第一・第二係長
代表者会議	毎月第3 火曜日	館長、フレンド所長、管理・支援第一・第二係長、各事業代表、正規事務
ケース会議（職員研修）	第2水曜日	全職員（管理係を除く）
	4月	虐待防止・身体拘束研修
	5月	ソーシャルワークの為のGW
	6月	個別支援計画について
	7月	衛生研修（食中毒対策）
	9月	PBS 研修
	10月	虐待防止研修（セルフチェックの振り返り）
	11月	障がい特性の理解と構造化
	12月	PBS 研修
	1月	感染予防研修（ロールプレイ）
支援会議（支援第一係、生活介護作業型）	毎月第二水曜日	各係所属職員、所属係長
	最終金曜日	
支援会議（生活介護活動型）	毎月	活動型職員、支援第二係長
保健会議	3か月/1回	各事業代表者、厨房職員、看護師
給食会議	同上	各係代表者、厨房職員
朝礼	毎朝	全職員
終礼	毎夕	生活介護活動型

	研修	内容	頻度	参加者
法人・職場内研修	服務研修	安全運転と飲酒運転撲滅	年/1回	全職員
	接遇研修	利用者及び関係者への接し方 ※ケース会議	年/1回	〃
	人権研修	様々な人権問題について ※ケース会議	年/1回	〃
	メンタルヘルス研修	気づきやリラクゼーションに関する研修	年/1回	〃
	個人情報保護研修	個人情報の取り扱いについて ※代表者会議・入職時	年/1回	〃
	衛生研修	食品衛生法及び感染予防について	年/1回	製造関係者
	ケース会議	利用者支援に関する情報共有、基礎研修及び、事例検討	月/1回	〃
	PBS 研究会・事例検討	利用者支援に関する課題検討、支援方略、成果の共有	年/2回	館長、サビ管事例提供者等
施設外研修	凸凹ネット早良研修	令和6年度は施設紹介を実施	年/1回	担当者
	衛生推進者養成研修	精神保健衛生に関する研修	1名	担当者
	就労支援基礎研修	就労支援に必要な基本的知識・技術の習得	未受講	就労支援職員
	訪問型職場適応援助者養成研修	職場にジョブコーチが外向いて、障害特性を踏まえた専門的な支援を行い障害者の職場適応を図る	1名	〃
	自閉症スペクトラム支援者養成研修	自閉症支援の基礎・実践力の習得	未受講	該当者
	福岡市障がい者行動支援研修	行動障がい児者の理解と支援技術の習得	5名	〃
	強度行動障害支援者養成研修		1名	〃
	ABA 研修	応用行動分析に関する知識の習得と支援への般化	7名	〃
	福岡県北部地区在宅重症児者連携会議	地域連携と情報の収集、在宅重症児者支援の専門性の向上を図る	不参加	館長・サビ管
	社会福祉士実習指導者講習会	相談援助実習受託にかかる、実習指導者の養成	未受講	該当者
	食品衛生研修	食品衛生に関する知識、衛生管理の習得	1名	〃
その他	福岡市民間施設協議会の開催する研修などへの参加を行う			

(2) 年間行事・その他の業務スケジュール  
(就労系事業)

月	就労継続支援B型	就労移行
4月	個別支援計画策定会議	
5月	新年度事業計画利用者家族説明会 利用者及び家族個別面談/個別支援計画策定と説明、同意/視力検査	
6月	眼科健診/介護等体験実習受け入れ	第1期利用者モニタリング 個別支援策定会議/第2期個別支援計画策定と説明、同意
7月		
8月	第1回内科健診/第1回給食試食会	
9月	レントゲン健診、血液検査/第1回避難訓練 第1回利用者意見交換会	第2期利用者モニタリング 個別支援策定会議/第3期個別支援計画策定と説明、同意
10月	ももち福祉まつり	
11月	歯科検診/第2回給食試食会	
12月	利用者アンケート	第3期利用者モニタリング 個別支援策定会議 第4期個別支援計画策定と説明、同意
1月	後期モニタリング/第2回内科健診	
2月	第2回避難訓練/個別面談/第2回利用者意見交換会	

	各事業反省と次年度計画案検討 次年度計画案作成	
3月	次年度事業運営案、年間計画作成	
	令和6年度個別支援計画案作成 個別支援策定会議	第4期利用者モニタリング 個別支援策定会議 令和6年度第1期個別支援計画策定と説明、同意
その他	地域交流:百道浜校区夏祭り(7月)/百道浜公民館文化祭(11月)/百道浜校区地域清掃(月/1回)	

(生活系事業)

月	生活介護(活動型)	生活介護(作業型)
4月	新年度事業計画利用者家族説明会	
	利用者及び家族個別面談 花見/ミニドライブ/音楽教室/運動教室/ 職員会議	個別支援計画策定会議 地域清掃交流(毎月第三木曜日)
5月	音楽教室/運動教室/職員会議	利用者及び家族個別面談/視力検査
6月	介護等体験実習受け入れ開始	
	音楽教室/運動教室/グループ外出 職員会議	眼科健診/第1回家族懇談会
7月	音楽教室/運動教室/ギター演奏会 調理(かき氷作り)/職員会議	
8月	第1回内科健診/利用者及び家族個別面談/第1回給食試食会	
	音楽教室/運動教室/職員会議	
9月	前期モニタリング/個別支援策定会議/後期個別支援計画策定と説明、同意 レントゲン健診/血液検査/第1回避難訓練	
	音楽教室/運動教室/職員会議	第1回利用者意見交換会
10月	ももち福祉まつり	
	音楽教室/運動教室(運動会)/職員会議	百道浜校区清掃キャンペーン/個別懇談
11月	第2回給食試食会	
	音楽教室/運動教室/職員会議	歯科検診
12月	利用者アンケート	
	音楽教室/運動教室/干支年賀状づくり/ 職員会議	
1月	後期モニタリング/第2回内科健診	
	個別面談/音楽教室/運動教室 書初め/初詣/職員会議	
2月	第2回避難訓練/各事業反省と次年度計画案検討/次年度計画案作成	
	音楽教室/運動教室/職員会議	第2回家族懇談会、学習会/第2回利用者意見交換会
3月	令和6年度個別支援計画案策定/個別支援会議/次年度事業運営案/年間計画作成	
	音楽教室/運動教室/職員会議	
その他	地域交流:百道浜校区夏祭り(7月)/百道浜公民館文化祭(11月)/百道浜校区地域清掃(月/1回)	

5. 苦情対応 なし

# 令和6年度「福岡市立早良障がい者フレンドホーム」事業報告

## 1. 目的及び方針

福岡市立早良障がい者フレンドホームは、運動教室、文化教室、余暇支援等を行い障がい者に社会参加の機会を提供すると共に生きがいを高めることを目的とし、ももち福祉プラザとの複合施設としてのメリットを活かし、障がい者の多種多様なニーズに対応する事業運営を一体的に取り組んだ。

また、令和5年度より、ももち福祉プラザの指定管理も受託したことに伴い、運営法人が一元化され、より効率的かつ事業所間の連携を強化した事業所運営を実施した。

### 事業展開の主な柱

#### (1) 体育室を活用した事業

- ① 福岡市立早良障がい者フレンドホームには、他のフレンドホームにはない体育室が設置され、専門職として運動指導員を配置しているため、専門的な運動教室、レクリエーション教室を実施した。
- ② 高次脳機能障害を含む頭部外傷や脳血管障害を対象にした「リハビリ教室」や「いきいき運動教室」を実施し、身体機能の維持・向上に貢献した。
- ③ その他にも、股関節障がい者や発達障がい者、軽度知的障がい者を対象としたリハビリテーションや社会的なスキル向上のための支援教室を実施した。

#### (2) ももち福祉プラザとの連携

利用者の多種多様なニーズに対応できるよう、ももち福祉プラザと連携を取りながら、事業を展開した。

## 2. 重点目標

第1期指定管理においては、以下の項目に重点的に取り組んだ。

### (1) 重点目標

- ① 障がい児・者の社会参加の機会を提供するとともに、生きがいを高めることを目的として、各種文化・運動教室を開催する。
- ② 生涯学習の位置づけとして、教室終了後の学習活動の場や、教室以外の活動の場として行われるサークル活動への支援にも取り組む。
- ③ 障がい児・者への運動や機能訓練の一環として、障がい児・者施設への運動指導員の派遣に取り組む。
- ④ 他のフレンドホームにはない特色として、体育室が設置されており、専門職として運動指導員を配置しているため、リハビリやスポーツ・レクリエーションに関する教室を多く実施していく。
- ⑤ 社会参加の機会を増やすことを目的に、運動・文化・講座などの単発教室を増やし、活動の場を広げていく。

## 3. 取り組み計画

### (1) 教室運営（全44教室）

※利用者→利、介助・ボラ→介、一般→一

	教室名	対象	在籍者	開催日	延べ参加人数	備考
リハビリ	リハビリ教室(スポーツ)	頭部外傷や脳血管障害による障がいのある方	13	第1・2・3・4 木曜日	利：302 介：269 計：571	
	リハビリ教室(パソ)	頭部外傷や脳血	6	第1・2・3・4	利：216	

	コン)	管障害による障がいのある方		木曜日	介： 6 8 計： 2 8 4	
	股関節のためのアクティブストレッチ教室	股関節障がいのある方	2 2	第1・3 火曜日	利： 4 1 7 介： 0 計： 4 1 7	
	いきいき運動教室	頭部外傷や脳血管障害による障がいのある方	5	第1・3 火曜日	利： 5 4 介： 3 8 計： 9 2	
スポーツ	エンジョイスポーツ教室	18歳以上の障がいのある方	1 3	第2・4 土曜日	利： 2 0 0 介： 1 3 1 計： 3 3 1	
	アクティブスポーツ教室	18歳以上の障がいのある方	9	第2・4 土曜日	利： 1 0 1 介： 6 5 計： 1 6 6	
	中高生運動教室	障がいのある中学生・高校生	1 1	第1・3 土曜日	利： 1 4 8 介： 1 6 1 計： 3 0 9	
	アスリートボッチャ教室	脳性麻痺者、同等の障がいのある方	1 4	第1日曜日	利： 9 9 介： 9 7 計： 1 9 6	
生活	はじめての手話教室	障がいのある方	7	第1土曜日	利： 4 3 介： 1 0 一： 1 2	計： 6 5
		健常者	3			
こども運動教室	チャレンジキッズ教室	特別支援学級等の小学生	7	第1・2・3 水曜日	利： 2 3 7 介： 2 5 2 計： 4 8 9	
	キッズサッカー教室	知的・発達に障がいのある小学生	1 1	第4水曜日	利： 7 3 介： 6 6 計： 1 3 9	
	体づくり運動教室	障がいのある小学生	6	第1・3 金曜日	利： 6 6 介： 6 9 計： 1 3 5	
	リトミック教室(前半)	障がいのある小学生	8	第1・3 日曜日	利： 1 3 0 介： 1 8 5 計： 3 1 5	
	リトミック教室(後半)	障がいのある小学生	1 0	第1・3 日曜日	利： 1 3 6 介： 1 7 4 計： 3 1 0	

文化教室 (パソコン)	はじめてのパソコン教室 ワード	18歳以上の肢体・内部に障がいのある方	4	5月17日～ 7月5日 金曜日	利： 2 2 介： 0 計： 2 2	
	はじめてのパソコン教室 エクセル	18歳以上の肢体・内部に障がいのある方	4	7月19日～ 8月30日 金曜日	利： 2 3 介： 0 計： 2 3	
	軽度知的障がい者パソコン教室	高校生以上の軽度知的障がい者 (B1・B2・無)	5	第1・3 日曜日	利： 6 0 介： 5 計： 6 5	

	こどもパソコン教室 (小学4～6年生)	障がいのある 小学4・5・6年生	5	5月19日～ 9月15日 第1・3日曜 日	利：39 介：49 計：88	
	こどもパソコン教室 (中学生)	障がいのある中 学生	4	10月6日～ 3月16日 第1・3日曜 日	利：29 介：25 計：54	
	はじめてのスマー トフォン教室 (Android) 9～10月	18歳以上の肢 体・内部に障が いのある方	5	9月6日～ 10月4日 金曜日	利：18 介：0 計：18	
	はじめてのスマー トフォン教室 (Android) 10～11月	18歳以上の肢 体・内部に障が いのある方	6	10月25日 ～11月29 日 金曜日	利：17 介：0 計：17	
	はじめてのスマー トフォン教室 (iPhone)	18歳以上の肢 体・内部に障が いのある方	2	12月6日～ 1月24日 金曜日	利：8 介：0 計：8	
	はじめてのスマー トフォン教室 (Android) 2～3月	18歳以上の肢 体・内部に障が いのある方	3	2月7日～ 3月7日 金曜日	利：7 介：0 計：7	
文化 (芸術系)	書道	障がいのある方	8	第1・3 水曜日	利：128 介：0 計：128	
	折り紙教室	障がいのある方	5	第1水曜日	利：37 介：11 計：48	
	やさしい絵画教室	18歳以上の肢 体・内部に障が いのある方	5	第2・4 水曜日	利：66 介：0 計：66	
	アート教室	障がいのある方	9	第2・4 土曜日	利：128 介：115 計：243	
夏休 み教室	こども陶芸教室	障がいのある 小・中学生	7	7月30日 (火)	利：6 介：7 計：13	
	夏休みボッチャ体 験会	どなたでも可	8	8月3日 (土)	利：4 介：2 一：0	計：6
	陶芸教室(お皿)	高校生以上どな たでも可	6	8月10日 (土)	利：6 介：2 一：0	計：8
	ミニ夏祭り	どなたでも可	30	8月24日 (土)	利：16 介：12 一：11	計：39
単 発	料理教室(簡単おつ まみ)	障がいのある方 とその家族	5組	7月27日 (土)	利：2 介：1 計：3	

教室・イベント	料理教室(高野豆腐入りハンバーグ)	障がいのある方とその家族	5組	9月28日(土)	利: 5 介: 2 計: 7	
	料理教室(豆腐ドーナツ)	障がいのある方とその家族	4組	2月22日(土)	利: 4 介: 2 計: 6	
	ボッチャ体験教室	どなたでも可	6	9月7日(土)	利: 3 介: 1 一: 1	計: 5
	魚釣り(9月)雨天延期のため11月開催	障がいのある方とその家族	4組	11月3日(日)	利: 4 介: 6 計: 10	
	魚釣り(11月)雨天延期のため3月開催	障がいのある方とその家族	5組	3月22日(土)	利: 3 介: 3 計: 6	
	家族支援教室(ヨガ)	ご家族	8	10月29日(火)	利: 0 介: 8 計: 8	
	ももち浜ウォーキング	障がいのある方	6	11月2日(土)	利: 6 介: 0 計: 6	
	陶芸教室(干支づくり)	障がいのある方	5	11月30日(土)	利: 5 介: 6 計: 11	
	クリスマス会	障がいのある方	12	12月21日(土)	利: 11 介: 3 計: 14	
	ZUMBA	障がいのある方	11	1月31日(金)	利: 11 介: 5 計: 16	
共催	フィットネス・スポーツ教室(西フレンド共催)	障がいのある方	10	第2・4火曜日	利: 46 介: 1 計: 47	参加人数は西FHと按分
	フレンド合同イベント(ボッチャ)	障がいのある方	58	11月16日(土)	利: 5 介: 3 計: 8	参加人数は全FHと按分

## (2) サークル支援

団体名	障がい等	開催日等
リハビリサークルクラブ百	脳血管障がいや高次脳機能障がいなど、身体障がい者の運動サークル ※リハビリ教室卒業生など	毎月第1・2・3・5火曜日にボッチャや卓球バレーなどの指導・審判の支援。
りんどう	股関節障がい者の運動サークル	毎月最終金曜日に体操指導。
ドリームスマッシュ	視覚障がい者のブラインドテニスサークル	不定期、球出しや試合相手など。
コスモスの会	脳血管障がい者の陶芸サークル	毎週木曜日に道具の準備・片付けなど。
プレジール	股関節障がい者の運動	毎月第2金曜日に道具の準備・片付けなど。

ふわふわ	ダウン症児の子育てサロン (早良区地域保健福祉課主催)	毎月第 2 金曜日に会場設営 や道具の準備・片付けなど。
もちもち	発達障がい児の子育てサロン (早良区地域保健福祉課主催)	毎月第 4 金曜日に会場設営 や道具の準備・片付けなど。 年 2 回、ミニ講座で運動指導 員が体操などの指導。

(3) リハビリ教室

市内在住の高次脳機能障がい者を対象に、運動機能の維持・向上、また自立のための支援、仲間づくりの場として社会参加を促進する目的で実施した。

【令和 6 年度目標】 ○年間利用者数：500人

【令和 6 年度実績】 ○年間利用者数：518人

(4) 教室への取り組み

運動教室・文化教室へ参加しやすいように令和 5 年度と変わりなく、企画・運営を行なう。また、新規単発教室を計画し、気軽に参加できる教室を実施した。

【令和 6 年度目標】 ○新規通年教室：7 教室 ○新規単発教室：9 教室

【令和 6 年度実績】 ○新規通年教室：7 教室 ○新規単発教室：9 教室

(5) 相談・支援事業

教室を利用されている方や外部の障がい者、その家族、関係機関からの相談等に対応する。状況や内容に応じて各区障がい者基幹相談支援センターなどと連携を図りながら支援した。

【令和 6 年度目標】 ○年間相談件数 100 件

【令和 6 年度実績】 ○年間相談件数 55 件

(6) 体育室・講習室等の提供

① 障がい児・者やその家族、ボランティアの定例会、学習会、サークル活動などに利用できるようにした。

② サークル団体育成の視点から、1 年単位での定期利用団体制度（仮予約）を設け、継続的な活動が実施できるように支援した。

【令和 6 年度目標】 ○定期利用団体数：26 団体 ○延べ 21,000 人

【令和 6 年度実績】 ○定期利用団体数：25 団体 ○延べ 22,832 人

(7) 地域交流と啓発事業

① 感染症対策を講じて、「もちもち福祉まつり」を行い、地域交流の場を開催した。

【令和 6 年度目標】 ○来場者：500 人

【令和 6 年度実績】 ○来場者：580 人 10 月 13 日開催

② 百道浜公民館文化祭等に文化教室受講者の作品を出品した。

③ 百道浜校区の事業（百道浜校区夏祭り等）へ参加し、出店等を行った。

④ 百道浜校区の老人クラブの体育室利用、百道浜公民館いきいきカフェへの指導員派遣等を行った。

⑤ 「福岡市障がい児・者美術展（福岡コアサイド・アート）」へ実行委員として参画した。

(8) 他施設等との連携による支援

① 障がい者スポーツセンターと連携しながら、パラスポーツの普及・促進を目的にパラスポーツの機会を提供した。

② 西障がい者フレンドホームに運動指導員を派遣し、共催で健康マット体操教室を実施した。

③ 運動指導員の特性を活かすため、派遣事業（指導員派遣）を実施した。

派遣事業所等	内容等	開催日等
放課後等デイサービス野の花 姪浜	リズム運動	月 1 回

放課後等デイサービス野の花 今津	リズム運動	月 1 回
西障がい者フレンドホーム リハビリ教室	卓球バレー	年 1 回
百道浜公民館いきいきカフェ	地域の高齢者の健康体操等	月 1 回

※その他依頼があれば、検討し実施する。

④ ももち福祉プラザと連携して、利用者に運動の機会を提供した。

派遣事業所等	内 容 等	開催日等
ももち福祉プラザ生活介護作業型	レクリエーション・軽スポーツ	月 2 回
ももち福祉プラザ生活介護活動型	レクリエーション・軽スポーツ	月 2 回
ももち福祉プラザスポーツクラブ 就労継続支援 B 型	軽スポーツ	年 6 回

#### 4. 重点項目

(1) 地域との交流（ももち福祉プラザとの共通項目）

地域に開かれた施設となるよう、施設の行事などの運営に地域の方の意見を反映させる事を目的に「ももち福祉プラザ地域交流推進懇談会」を設置し、2回開催した。

(2) 広報の取り組み（ももち福祉プラザとの共通項目）

①プラザだよりの発行

地域の方々等に施設に関心を持っていただくことを目的に、プラザだよりを年2回発行した。

②啓発のための講座等の開催

地域に施設（法人）事業の取り組みを知っていただくことの啓発活動を公民館、学校等で講演した。

令和6年度実績	
①プラザだより	2回（冬号、春号）
②講演	短大1回

(3) 新規教室の開講

現在実施している教室・講座の参加状況や利用者アンケートの内容を参考に、利用者ニーズに合わせた新たな文化教室、スポーツ教室等を企画し開催した。

また、併せて現状の教室等の見直しや廃止についても検討した。

- 【令和6年度実績】
- 文化教室 14 教室（内新規教室 6 教室）
  - スポーツ教室 13 教室（内新規教室 1 教室）
  - 講座等 17 講座（内新規講座 9 講座）

(4) スポーツ大会開催の検討

ボッチャ大会やブラインドサッカー等の開催を関係団体と検討します。

- 【令和6年度実績】
- フレンド合同イベント「わくわくボッチャ！」（11月16日開催）
  - クラブ百主催「忘年ボッチャ大会」（12月10日開催）

#### 5. その他

(1) 年間会議・研修要領

会 議	開催頻度	参加者
法人経営会議	毎月第2月曜日	館長・課長以上
施設長会議	毎月第2月曜日	館長

課内会議（虐待防止・身体拘束適正化委員会含む）	毎週火曜日	係長級以上
代表者会議	毎月第3火曜日	係長級以上、各事業代表者
職員会議	月1回	全職員
朝礼・終礼	毎朝・夕	全職員

	研 修	内 容	頻度	参加者
法人・ 職場内 研修	サービス研修	安全運転と飲酒運転撲滅	年/1回	全職員
	接遇研修	利用者及び関係者への接し方	年/1回	〃
	人権研修	様々な人権問題について	年/1回	〃
	メンタルヘルス研修	予防やリラクゼーションに関する研修	年/1回	〃
	個人情報保護研修	個人情報の取り扱い等について	年/1回	〃
	PBS 研究会・事例検討	利用者支援に関する課題検討、支援方略、成果の共有	適宜	関係職員

※その他、障がい者支援センター研修計画に基づいて参加します。

施設外 研修・ 会議	凸凹ネット早良事例検討会(民間協早良区部会)	困難事例などについて、早良区内の他事業所と検討し職員の支援向上を図る	年5回	関係職員
	フレンドホーム連絡部会(部会長)	フレンド間の情報の共有と連携を図る	月1回	運動指導員 生活相談員
	フレンドホーム施設長会(連絡会会長)	フレンド間の情報の共有と連携を図る、懸案事項の決定	年2回	施設長 運動指導員 生活相談員
	福岡市障がい児・者美術展実行委員会	美術展の開催に向けた企画・運営	月1回	施設長 運動指導員 事務員
その他研修		福岡市民間施設協議会等開催の研修に、必要に応じ参加		

## (2) 職員体制

区 分	配置基準(人)
管理者	1
運動指導員	2
生活相談員	1
事務員	1
合 計	5

(3) 年間スケジュール

月	行事・その他の業務 ※地域行事は状況に応じて参加	通年事業※順不同
4月	・4月開講教室 開催	<b>【リハビリ関係教室】</b> ・リハビリ教室（スポーツ・パソコン） ・股関節のためのアクティブストレッチ教室 ・いきいき運動教室  <b>【スポーツ教室】</b> ・エンジョイスポーツ教室 ・アクティブスポーツ教室 ・中高生運動教室 ・アスリートボッチャ教室  <b>【生活支援教室】</b> ・はじめての手話教室  <b>【子ども運動教室】</b> ・チャレンジキッズ教室 ・キッズサッカー教室 ・体づくり運動教室 ・リトミック教室（前半・後半）  <b>【文化教室（パソコン系）】</b> ・はじめてのパソコン教室（全2教室） ・はじめてのスマートフォン教室（全4教室） ・軽度知的障がい者パソコン教室 ・子どもパソコン教室（小学4～6年生） ・子どもパソコン教室（中学生）  <b>【文化教室（芸術系）】</b> ・書道教室 ・折り紙教室 ・やさしい絵画教室 ・大人アート教室  <b>【その他】</b> ・サークル支援 ・指導員派遣 ・相談受付 ・体育室、講習室の貸し出し ・健康マット体操教室（西フレンド共催）
5月	・5月開講教室 開催	
6月	・6月開講教室 開催	
7月	・百道浜校区夏祭り ・料理教室（簡単おつまみ） ・こども陶芸教室	
8月	・夏休みボッチャ体験 ・陶芸教室（お皿） ・ミニ夏祭り	
9月	・前期モニタリング ・料理教室（ハンバーグ） ・ボッチャ体験 ・魚釣り	
10月	・ももち福祉まつり 2024 ・家族支援教室（ヨガ）	
11月	・百道浜公民館文化祭 ・ももち浜ウォーキング ・魚釣り ・陶芸教室（干支） ・フレンド合同交流会	
12月	・第16回福岡市障がい児・者美術展 ・クリスマス会 ・利用者アンケート ・避難訓練	
1月	・ZUMBA	
2月	・後期モニタリング ・定期利用団体説明会 ・料理教室（ドーナツ）	
3月	・魚釣り ・避難訓練	

(4) 苦情対応 なし